

加 古 川 市
子どもの読書活動推進計画
(第3次)

加 古 川 市

目 次

第1章 はじめに

国・県等の動向と第3次計画策定の趣旨	1
--------------------	---

第2章 基本的な考え方

1 基本理念	2
2 基本方針	2
3 計画の対象	2
4 計画の期間	2

第3章 加古川市子どもの読書活動推進の取組状況

取組状況総括	3
主な活動内容とその成果・課題	3

第4章 子どもの読書活動推進のための取組

1 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり	
(1) 家庭における読書環境の整備の促進	10
(2) 地域等における読書環境の整備	11
(3) 公共図書館における読書環境の整備	11
2 学校園等における読書習慣の形成と学習支援機能の充実	
(1) 認定こども園・幼稚園・保育所における読書環境の整備	14
(2) 小学校・中学校における読書環境の整備	14
(3) 保育士、保育教諭、教職員の実践的指導力の向上	15
3 地域社会の支えとボランティア育成の拡大	
(1) 校種間の連携、交流による支援	16
(2) 市民ボランティアの育成強化	16
4 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進	
(1) 保護者を含めた市民への啓発	17
(2) 広報の推進	17

第5章 計画の推進について

*加古川市子どもの読書活動推進連絡会	18
--------------------	----

【資料編】

1 子どもの読書活動実態調査アンケート調査報告	全49P
2 高校生への読書活動実態調査アンケート調査報告	全3P
3 子どもの読書活動の推進に関する法律	全2P
4 加古川市子どもの読書活動推進計画（第3次）策定経過	全3P
5 用語解説(五十音順)	全2P

加古川市子どもの読書活動推進計画（第3次）（案）

第1章 はじめに

国・県等の動向と第3次計画策定の趣旨

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであり、社会全体で積極的にそのための環境整備を推進していくことは極めて重要なことです。

国は、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的として、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。この法律に基づき、平成14年8月に、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境整備を積極的に推進することを基本理念とする「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。

その後、社会情勢や子どもの読書活動を取り巻く状況の変化等を踏まえ、平成20年に第二次計画を、平成25年に第三次計画を、平成30年に第四次計画を策定し、家庭や地域、学校等の連携・協力を重視した施策に取り組んでいます。

兵庫県においては、平成16年3月に「ひょうご子どもの読書活動推進計画」を策定し、その後、平成21年に第2次計画を、平成27年には第3次計画を、令和2年には第4次計画を策定し、子どもの読書活動推進の取組が進められています。

加古川市では、国や兵庫県の動向を踏まえ、平成22年に「加古川市子どもの読書活動推進計画」(以下「第1次計画」という。)を、平成28年に「加古川市子どもの読書活動推進計画(第2次)」(以下「第2次計画」という。)を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

この第2次計画が、令和2年度末で計画期間を満了することから、これまでの検証を行うため、令和元年7月に市内の小学生、中学生、未就学児の保護者等を対象に子どもの読書活動についてのアンケート調査を実施しました。第2次計画の実施により、乳幼児と絵本を結び付ける機会を増加させるなど、一定の成果を得ることができましたが、一方で子どもの読書活動を取り巻く環境が刻々と変化するなかで、依然として、学校段階が進むにつれて子どもの読書離れが顕著になる傾向が改善されていないこと、保護者等子どもの身近にいる大人への働きかけが不足していること等の課題もみられました。

これらの状況を踏まえ、今後4年間を見据え、さらなる子どもの読書活動の推進に必要と考えられる施策の基本的方針と具体的な方策を明らかにするため、新たな「加古川市子どもの読書活動推進計画」(第3次計画)を策定し、行政、家庭、地域、学校及び関係団体が一層協力し、連携を深め、子どもの読書活動推進のために様々な機会提供と環境整備を進めていくものです。

第2章 基本的な考え方

国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び兵庫県の「ひょうご子どもの読書活動推進計画」を踏まえ、加古川市総合計画、加古川市教育振興基本計画との整合性を図りながら、第3次計画は、第2次計画の基本理念を継承しつつ、第2次計画の成果や課題、「子どもの読書活動実態調査アンケート」等の結果を踏まえ、基本方針及び取組を見直します。

1 基本理念

「すべての子どもが自主的な読書活動を通じて豊かなこころを育み、生きる力を身につけることができる読書環境づくり」とします。

2 基本方針

子どもの読書活動の推進にあたっては、子どもの自主性を尊重し、子どもに読書の楽しさを伝え、実感する場を提供するとともに子どもの発達段階に応じた読書環境づくりが必要です。その上で、家庭内での読書を重視しつつ、保護者を含めた市民全体での取組を進めます。

このような視点から、次のように定めます。

- (1) 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり
- (2) 学校園等における読書習慣の形成と学習支援機能の充実
- (3) 地域社会の支えとボランティア育成の拡大
- (4) 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進

3 計画の対象

この計画の対象は、概ね18歳以下の子どもとします。

また、上記基本方針の視点から、子どもの保護者、子どもの読書推進活動に関わる市民ボランティア、保育士、保育教諭、教職員、行政関係者等も対象とします。

4 計画の期間

この計画の期間は、令和3年度から令和6年度までの4年間とし、必要に応じて計画を見直します。

第3章 加古川市子どもの読書活動推進の取組状況

取組状況総括

加古川市では、第2次計画の4つの基本方針に沿って、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

読み聞かせ*やストーリーテリング*等は、子どもが本と出会い、親しむ多くの機会を提供し、読書の「楽しさ」を実感してもらえるきっかけを創出し、読書好きな子どもの増加につながりました。

小学校、中学校においては、図書資料の充実に努め、掲示やレイアウト、案内表示等を工夫するとともに、図書館まつり・読書まつりなどの行事を開催する学校が増えるなど、読書環境の整備が進んできました。

おはなし会*や読み聞かせ、ブックトーク*の実施のほか、学校図書館や公共図書館*で市民ボランティアが図書館運営や資料整理に関わるなど、地域社会全体で読書活動推進の取組が進められてきました。

また、「家読*（うちどく）」を推進するために、啓発ちらしの配付やスタンプラリーの実施により、子どもが保護者とともに読書することの意義を広めました。

しかし、依然として子どもの学校図書館・公共図書館離れの傾向が見られることや、必ずしも全ての保護者が子どもに読書を薦めないなどの課題もあり、引き続き取組を推進していくことが重要となっています。

主な活動内容とその成果・課題

1 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり

活動内容及び成果・課題

- ・5年前と比較すると、認定こども園*・幼稚園・保育所の施設数合計は、54園から66園に増加しました。特に法人の認定こども園が大幅に増加しているなかで、各園における児童図書の蔵書の整備が追いつかない状況にあります。

[各園・施設あたりの平均蔵書冊数]

	平成26年度	令和元年度	増減
認定こども園	2,487冊	1,642冊	▲845冊
幼稚園	890冊	802冊	▲88冊
保育所	1,007冊	940冊	▲67冊
子育てプラザ*	1,085冊	1,000冊	▲85冊

- ・絵本・児童書の貸出の実施については、認定こども園・幼稚園・保育所のうち、半数近くの園で貸出をしていない現状です。

〔絵本・児童書の貸出の実施〕

	平成26年度	令和元年度	増減
認定こども園	83%	46%	▲37pt.
幼稚園	75%	68%	▲7pt.
保育所	57%	50%	▲7pt.

- ・認定こども園・幼稚園・保育所では、継続的に絵本の読み聞かせを行い、またその回数も増加しましたが、1回あたりの時間は減少しています。

〔1週間の読み聞かせ回数及び1回あたりの時間〕

	平成26年度		令和元年度		増減	
	10回以上	10分以上	10回以上	10分以上	10回以上	10分以上
認定こども園	67%	50%	54%	79%	▲13pt.	+29pt.
幼稚園	0%	90%	11%	79%	+11pt.	▲11pt.
保育所	52%	83%	79%	72%	+27pt.	▲11pt.
子育てプラザ	50%	50%	50%	100%	±0pt.	+50pt.

- ・認定こども園・幼稚園・保育所ともに、公共図書館との連携では、実施していないという回答が増加しました。しかし、5年前と同様に、読み聞かせを中心としたニーズがあります。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所に行った調査では、読書環境の問題点や課題として、「保護者の認識の格差」が高い数値を占めています。
- ・家庭の読書環境としては、中学生で家にある自分の本が10冊未満の生徒が3分の1以上います。しかし、小学生では家にある自分の本の冊数は増加しています。

〔家に10冊以上自分の本がある子ども〕

	平成26年度	令和元年度	増減
小学校中学年	77%	94%	+17pt.
小学校高学年	73%	76%	+3pt.
中学生	64%	63%	▲1pt.

- ・公共図書館については、小学校中学年では、学校以外の図書館に「行かない」子どもの割合が4割、小学校高学年以上では、「読みたい本は買って読む」が「公共図書館で借りる」を上回っています。

[学校以外の図書館をよくまたは時々利用する子ども]

	平成26年度	令和元年度	増減
小学校低学年	71%	69%	▲2pt.
小学校中学年	60%	56%	▲4pt.
小学校高学年	48%	46%	▲2pt.
中学生	26%	28%	+2pt.

- ・中学生は、4分の1以上が「もっといろいろな本をそろえる」ことを公共図書館に求めています。

2 学校における読書環境の整備

活動内容及び成果・課題

- ・小学校、中学校において、図書資料の充実に努めた結果、蔵書冊数が増え、学校図書館図書標準*冊数の充足率が向上しました。
- ・小学校の貸出冊数の推移については、増加傾向にはなっていない現状です。中学校においても、「変化はない」という回答が多いものの、貸出冊数は減りつつあります。
- ・小学校において図書の装丁・修理、学校図書館内の掲示等の環境整備、読み聞かせをボランティアが行っている学校が増加しました。しかし、まだ活動していない学校もあります。
- ・小学校において、図書館まつり・読書まつりを開催する学校が増えました。
- ・小・中学校ともに、今後公共図書館との連携強化として、選書支援等の業務相談やボランティアの育成・派遣が求められています。
- ・小・中学校ともに、蔵書の充実や図書購入予算確保よりも、「図書室担当職員確保（学校司書の配置）」の要望が高まっています。
- ・小学校の「図書」の時間については、学年が上がるにつれて、自由読書やおはなし会の割合が減少し、調べ学習や「国語」の授業を行うようになっています。

[蔵書冊数]

	平成26年度	令和元年度	増減
小学校 28校	203,941冊	243,180冊	+39,239冊
中学校 12校	108,526冊	122,367冊	+13,841冊
支援学校 1校	4,800冊	4,586冊	▲214冊
公民館図書室 (児童書・絵本)	4,204冊	4,412冊	+208冊

[学校図書館図書標準冊数の充足率]

	平成26年度	令和元年度	増減
小学校 28校	65%	90%	+25pt.
中学校 12校	74%	78%	+4pt.
支援学校 1校	56%	55%	▲1pt.

- ・1か月に1冊も本を読まない子どもの割合（不読率）は、小学生・中学生ともに全国平均（小学生6.8%、中学生12.5%）より少なく、従来からの取り組みの成果がでています。

[1か月に1冊も本を読まない子ども]

	平成26年度	令和元年度	増減
小学校中学年	2%	2%	±0pt.
小学校高学年	6%	6%	±0pt.
中学生	14%	9%	▲5pt.

- ・読書が好きな児童生徒の割合は、小学生で8割から9割、中学生で7割以上となっていますが、1か月の読書冊数は減少傾向にあります。

[1か月に5冊以上本を読む子ども]

	平成26年度	令和元年度	増減
小学校中学年	72%	64%	▲8pt.
小学校高学年	47%	45%	▲2pt.
中学生	20%	18%	▲2pt.

- 令和元年度の「全国学力・学習状況調査」結果では、小学校国語において「読むこと」などで全国平均回答率を下回っています。（「読むこと」の全国平均回答率 82%、加古川市平均回答率 78%。「話すこと・聞くこと」の全国平均回答率 72%、加古川市平均回答率 67%。）
- 小学校・中学校での学校図書館の利用については、小学校高学年では利用回数が 0 回の児童の割合が 3 割、中学生では利用回数が 0 回の生徒が 8 割を占めているという課題があります。

〔1 週間に学校図書館を 1 回も利用しない子ども〕

	平成 26 年度	令和元年度	増 減
小学校中学年	3 %	7 %	+ 4 pt.
小学校高学年	31 %	30 %	▲ 1 pt.
中学生	78 %	83 %	+ 5 pt.

3 関係機関の連携・協力による地域社会全体での取組の推進

活動内容及び成果・課題

- 「中学校区連携ユニット 12*」（以下「ユニット 12」という。）において、全体として既に実施している事業（読み聞かせや図書寄贈の呼びかけ等）が減少しています。今後の取組として、校種を越えて行う読み聞かせやブックトークよりも家庭読書、親子読書推進が必要と考えられています。

〔ユニット 12 の取組〕

	平成 26 年度	令和元年度	増 減
小学校	4 校	1 校	▲ 3 校
中学校	2 校	3 校	+ 1 校

- 公共図書館の除籍本、市民から寄せられた寄贈本等の児童書を各機関に配付する「児童書配付事業」を実施しました。特に児童クラブが所蔵する児童書が増加し、子どもがあらゆる機会に図書と出会うことができるようになりました。

〔「児童書配付事業」の配付数（実績）〕

	平成 26 年度	平成 30 年度	増 減
幼稚園	293 冊	104 冊	▲ 189 冊
保育所	370 冊	343 冊	▲ 27 冊
小学校	2,317 冊	1,083 冊	▲ 1,234 冊
その他(公民館・児童クラブ等)	546 冊	3,296 冊	+ 2,750 冊
合計	3,526 冊	4,826 冊	+ 1,300 冊

4 子どもの読書活動の推進に関わる人材の育成

活動内容及び成果・課題

- ・公共図書館や公民館等で、読み聞かせやストーリーテリングボランティアの養成講座及びスキルアップ講座を実施し、読書活動促進の担い手となる多くのボランティアを育成しました。

[読み聞かせ等ボランティア養成講座（実績）]

	平成26年度		平成30年度	
	回数	参加人数（延べ）	回数	参加人数（延べ）
公民館	13回	206人	14回	188人
中央図書館	19回	210人	21回	304人
合計	31回	416人	35回	492人

- ・読み聞かせボランティアが認定こども園・幼稚園・保育所、公共図書館等のおはなし会で活動し、子どもへの読み聞かせの機会を充実することができました。

5 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進

活動内容及び成果・課題

- ・はじめまして絵本事業では、4か月児健診時に、乳幼児向けのおすすめ絵本リスト「はじめまして絵本」を公共図書館から配付しました。また、その内容も紹介する絵本を増やすなどして更新しています。しかし、「はじめまして絵本事業」の認知度は、まだ低い状況です。

[絵本リスト「はじめまして絵本」の配付数（実績）]

	平成26年度		平成30年度	
	回数	配付人数	回数	配付人数
4か月児健診	36回	2,173人	36回	1,882人

- ・「家読（うちどく）」を推進するために、啓発ちらしの配付やスタンプラリーを実施しました。

[「家読（うちどく）」啓発ちらしの配付数（令和元年度実績）]

配付先	配付枚数
認定こども園・幼稚園・保育所・小学校・中学校・特別支援学校等	32,500枚

- ・読書の重要性は認識しているが、読み聞かせをあまりしていない保護者が多く、啓発が十分ではないと考えられます。
- ・認定こども園・幼稚園・保育所等での働きかけにより、未就学児に読み聞かせをしている保護者はいますが、小学校に入ると保護者に本をよく読んでもらう児童の割合は、3分の1程度に減少してしまいます。

〔「読み聞かせの頻度」と「読書はとても重要だと考える保護者の割合」の相関〕

	平成26年度	令和元年度	増減
よくする	89%	88%	▲1pt.
時々する	74%	73%	▲1pt.
あまりしない	58%	53%	▲5pt.
ほとんど、または全くしない	45%	57%	+12pt.

- ・家の人から本をよく読むように言われる子どもが約3割となっている一方で、子どもに対して読書を薦めない保護者の割合が4割以上となっており、子どもの読書離れの一つの原因と考えられます。「第65回学校読書調査」(令和元年実施)でも、「大人の働きかけが子どもの読書量に影響する」と分析されています。

〔家の人に、本をよく読むように言われる子ども〕

	平成26年度	令和元年度	増減
小学校中学年	36%	30%	▲6pt.
小学校高学年	37%	33%	▲4pt.
中学生	30%	27%	▲3pt.

第4章 子どもの読書活動推進のための取組

1 子どもが本と出会い、親しむ機会の提供と、読書の楽しさを実感できる環境づくり

子どもが自ら読書活動を行うためには、その子どもにとって読書が「楽しい」ものであることが重要です。そして、読書を「楽しい」と感じるためには、より多くの本と出会う機会が大切です。そこで、家庭や地域、公共図書館において、本との出会いの場や本に親しむ機会をより多く提供するとともに、読書の楽しさを伝える取組を進めます。

(1) 家庭における読書環境の整備の促進

家庭は人々が日常生活を営む基盤であり、家庭における読書環境は子どもの読書習慣の形成に大きな影響を与えます。

子どもが本と出会い、親しみ、読書習慣を身につけていくためには、まず身近に絵本を含めた図書があることが必要です。その上で、親や家族が子どもの読書活動の意義を理解し、読み聞かせをし、子どもと一緒に本を読むなど、ふれあいの中で本と出会うきっかけを与え、読書に対する興味や関心を引き出すように働きかけることが重要です。

そこで、家庭での読書環境が整備されるよう各家庭に対して啓発を行うことに加え、保護者に対する読み聞かせ講座を実施し、子どもの読書に関する相談窓口を設置するなど、家庭での取組を支援します。

① はじめまして絵本事業の充実

子どもの読書活動の基礎を築き、乳幼児期からの読み聞かせを支援するため、公共図書館においてブックリスト「はじめまして絵本」や図書館カード登録案内を作成し、4か月児健診時に保護者に配付します。またその際に、保護者からの相談に応じたり、乳児への読み聞かせを行ったりします。

また、公共図書館で開催している定例行事を掲載した広報ちらし等を、認定こども園・幼稚園・保育所から保護者に配付し、読書活動への意識・関心をさらに高め、家庭での読書活動を促進します。

② 子どもの読書に関する講座等の実施

子どもの絵本に対する興味を引き出し、読書習慣の素地をつくるうえで有効な「読み聞かせ」が各家庭において広く実践されるよう、保護者やその子どもを対象に公共図書館で開催する読み聞かせ講座等を、子どもの年齢に応じてきめ細かな内容にするなど、より充実を図ります。

(2) 地域等における読書環境の整備

子どもの読書活動を推進するためには、子どもが日常の生活の中で、いつでもどこでも本とふれあうことができるよう、身近なところにより多くの読書環境の整備が求められます。

そこで、子育てプラザや公民館、児童クラブ等の身近な施設における図書コーナーの活用や、読み聞かせ等の事業の充実を図るなど、地域における読書環境の整備に努めます。

① 子育てプラザ等における読書環境の整備

子育てを支援する拠点施設としての「加古川駅南子育てプラザ」、「東加古川子育てプラザ」及び「志方児童館」では、絵本コーナーの周知や活用を図るとともに、読み聞かせやおはなし会等を子どもの年齢に応じて充実させます。

② 公民館における読書環境の整備

公民館の児童書コーナーの周知や活用を図り、身近なところでいつでも本とふれあうことができる環境づくりを進めます。

また、読み聞かせやおはなし会等を実施するとともに、子どもの読書活動に関する情報発信を行います。

③ 児童クラブにおける読書環境の整備

寄贈図書を募ったり公共図書館からのリサイクル図書を受け入れたりするなど、児童クラブの図書の充実を図るとともに、読み聞かせやおはなし会等の実施を推進します。

(3) 公共図書館における読書環境の整備

公共図書館は、幅広い分野にわたって豊富な資料を所蔵しており、子どもたちはその中から自分が読みたい本を自由に読むことができる場であることに加えて、司書*等の公共図書館職員が、読書や調べものの相談に応じています。また、読み聞かせやストーリーテリング等の様々な事業の実施を通じて、子どもに読書の楽しさを伝え、子どもと本をつなぐ、子どもの読書活動の拠点となる施設です。

公共図書館が子どもの読書を推進するために果たす役割は非常に大きいものがあり、図書資料の整備をはじめ、相談体制の充実、事業の展開、情報の発信等、より積極的な取組を進めます。

① 図書資料の充実

公共図書館が子どもにとって楽しく魅力あふれる施設となるよう、子どもの読書傾向を把握しつつ、幅広くより質の高い図書資料の収集に努めるとともに、貸出希望の多い図書については複本*を備えるなど、分野・質・冊数の各面での図書資料のさらなる充実を図ります。

また、子ども向け電子書籍の充実に努めます。

② 魅力ある児童図書コーナーの整備

子どもが公共図書館に行くことが楽しみとなるよう、図書の配置、読書スペース、案内表示や飾りつけ等を工夫し、児童図書コーナーをより魅力的で親しみやすい空間として整備します。

また、児童と成人の間に位置する中学生、高校生の年齢層向けの図書を配置した専用コーナーに、その年齢層が興味を持つ分野の図書をより一層充実するなどし、読書推進を図ります。

③ 相談支援体制の充実

子どもが気軽に相談できるような雰囲気づくりを行うとともに、多岐にわたる相談への適切な対応、レファレンス*、調べ学習*に対する支援ができる体制づくりに努めます。また、小学生向けの各種調べ方ガイドを作成し、配布するとともにホームページでも公開するなど、調べる力の育成を図ります。

④ 読書活動関連事業の実施

子どもが絵本や児童図書に興味や関心をもつよう、おはなし会等の事業をより積極的に広報しつつ実施します。

ア 読み聞かせ、おはなし会等の実施

読み聞かせ、おはなし会、人形劇等の様々な読書活動関連事業をより充実します。

イ 1日図書館員*等の実施

小学生、中学生を対象にした「1日図書館員」や小学生とその保護者を対象にした「図書館見学ツアー」等を実施し、読書への関心を持たせます。

ウ 読書手帳などの導入

新しい図書館システムの機能を活かし、子どもの読書の活性化につながるよう、読書手帳等を導入します。

⑤ 子どもの読書推進に係る情報提供

年齢に応じた推薦図書のリストを発行するなど、子どもや保護者が本を選ぶ際の助けとなるよう、情報を提供します。また、家庭に向けて子どもの読書活動に関連する情報を積極的に発信します。

ア 「こどもしんぶん」の発行

「こどもしんぶん」を毎月発行し、学校園等へ配付するとともに公共図書館のホームページへ掲載します。

イ 小学生への児童書リストの配付

夏休み前に、市内全小学生へ学年に応じたおすすめの本を紹介したリストである「としょかんの本だな」を配付します。また、公共図書館の館内で、紹介した本の特集コーナーを設置します。

ウ 年齢に応じたおすすめ図書リストの配布

3歳から5歳向け並びに小学生向けの、読み聞かせに適した絵本リストを配布します。また、中学生向け並びに高校生向けのおすすめ図書の紹介リストを配布します。

エ 情報の発信

SNSやメールマガジンなどの活用により積極的な情報発信に努めます。

⑥ 公共図書館と学校園、児童クラブ等の連携

子どもの読書活動を一層推進していくために、公共図書館と学校園、児童クラブ等の地域の施設との連携を強化し、相互の協力体制のもとに取り組みます。

ア 情報の相互提供

公共図書館から学校園等に蔵書状況や事業予定等の情報提供を行うとともに、学校園等の読書活動計画や公民館等の読書活動に関する行事計画等を収集するなど情報の共有化を図り、一体的に子どもの読書活動に対する支援を充実します。

イ 学校園、児童クラブ等との連携

(ア) おはなし会等の実施

公共図書館の司書等が学校園等へ出張し、おはなし会や読み聞かせ、ブックトークを実施します。

また、公共図書館において、学校園等から児童や生徒、園児を受け入れ、図書館見学ツアーやおはなし会を実施します。

(イ) 団体貸出の実施

学校園や児童クラブ等に対し団体貸出を実施し、児童や生徒、園児が多くの本とふれあうことができる機会を充実します。

(ロ) 小学1年生等への図書館カードの交付

市内の小学1年生を対象に、図書館カードを交付する「図書館カード交付事業」を実施します。

(ハ) 児童書の配付

公共図書館より、除籍本、寄贈本等の児童書を学校園や児童クラブ等に配付します。

(ニ) 社会体験活動の実施

公共図書館より小学校に出向いたり、公共図書館に中学生や高校生を受入れたりする「トライやる・ウィーク*」やインターンシップなどの社会体験活動を実施し、各種学校と連携します。

⑦ 多様なニーズをもつ子どもの読書活動の推進

様々な子どもが図書館を利用しやすくするよう、館内表示をわかりやすくし、職員に研修を行うなど受入体制を整え、合理的配慮の提供と必要な環境づくりに努めます。

さわる絵本や点字絵本、大活字本などのユニバーサルな資料の提供に努めます。

さらに、外国語を母語とする子どもがより多くの本と出会えるよう、外国語資料の提供に努めます。

⑧ 公共図書館司書・職員の知識・技能の向上

公共図書館は読書活動の拠点であり、幅広い年代の子どもとその保護者が利用するため、子どもと本を結ぶ専門職としての司書をはじめとする公共図書館職員には、子どもの興味や特性、児童書に関する知識とともに、子どもとのコミュニケーション能力等、様々な知識・技能が求められます。各種の研修を通じて職員の知識・技能の向上を継続的に図り、児童サービス機能をさらに高めていきます。

2 学校園等における読書習慣の形成と学習支援機能の充実

認定こども園・幼稚園・保育所では、同年代の子どもとの集団生活の中で様々なことを学び、豊かな情操を育んでいきます。子どもが知的にも情緒的にも大きく成長するこの時期に、豊かな心を育む本と出会うことは、生涯において読書を楽しむうえで非常に重要な役割を果たします。

また、子どもの主体的な読書意欲・関心が生まれ、読書習慣が身についていく学齢期において、学校における読書活動の推進はとても重要なことです。その中であって、学校図書館は、児童・生徒が学習に関するいろいろな調べものをしたり、自らの読書活動を楽しんだりするための最も身近な図書館であり、読書活動や学校教育活動の支援において中心的な役割を果たします。

(1) 認定こども園・幼稚園・保育所における読書環境の整備

認定こども園・幼稚園・保育所においては、読み聞かせ等を通じて本に対する興味や関心がもてるように積極的に働きかけるとともに、絵本コーナーの充実等、子どもが本とふれあう環境を整備し、本に親しむきっかけづくりを行います。

① 読み聞かせ機会の充実

子どもが本の楽しさを実感し、読書意欲を高め、読書習慣を身につけられるよう日常の保育や教育活動の中に、読み聞かせ等を通して、絵本とふれあう機会を積極的に設けます。

② 絵本コーナーの充実

子どもがいつでも本とふれあうことができる絵本コーナーを設置し、年齢や発達段階にあわせ、また子どもの興味に応じた図書資料の充実に努めます。

③ 絵本の交換や貸出等による支援

認定こども園・幼稚園・保育所で園児がより多くの本と出会うことができるよう、交換絵本の充実に努めます。

また、家庭でもさらに本を楽しむことができるよう、貸出絵本の実施を広げます。

(2) 小学校・中学校における読書環境の整備

学校図書館は、「読書センター」及び「学習・情報センター」としての役割を持っています。その機能を十分に発揮できるよう図書資料や図書館環境の整備を進めるとともに、学校図書館の運営や図書館教育*の充実に努めるなど、読書推進に取り組む必要があります。各小学校・中学校においては、資料の充実やデータベースの活用を図るとともに、図書委員会活動を活用した児童・生徒の自主的な活動を支援するなど、児童・生徒にとって魅力ある読書環境の整備に努めます。

① 学校図書館の環境整備

学校生活を通じて自主的な読書活動をさらに広げていけるよう、児童・生徒が興味や関心をもてるような図書や、学習内容に関連した図書を計画的に配備することで、学校図書館図書標準に基づく蔵書冊数の達成に努めます。

その上で、児童・生徒が利用しやすく、学校図書館へ行くのが楽しみに感じられるような案内表示や室内の飾りつけ、図書資料の配架等に創意工夫をすることにより、快適な読書スペースを構築するよう取り組みます。

また、学校現場におけるICT環境整備の進展を見すえ、インターネットを活用した調べ学習の実践や、公共図書館との連携による情報収集の利便性向上など、学校図書館のメディアセンター化についての研究を進めます。

② 図書館教育の推進

児童・生徒の自発的、主体的な読書活動を推進していくためには、読書活動の意義について教職員が共通理解を持ち、子どもの発達段階に応じた適切かつ継続的な指導を行うことが大切です。そこで、小中学校図書館教育部会と連携して、職員研修の更なる充実を目指します。

各学校において、計画的な読書指導の実施や教職員の意識高揚・指導力向上等読書指導推進体制の充実に努めます。

児童・生徒の一人一人が本とふれあう機会としての「朝の読書*」を継続し、読書習慣の定着を図ります。

児童・生徒自身の手により全校の読書活動をさらに盛り上げることができるよう、図書委員会活動の活性化を促進・支援します。

そのほか、朗読発表会、読書感想文（画）コンクール等、児童・生徒と本をつなぐ活動を展開します。

③ 学校図書館における体制整備

学校図書館の人的体制については、これまで司書教諭が学校図書館ボランティアと協力し、学校図書館の環境整備に取り組んできました。今後も引き続き、司書教諭と学校図書館ボランティアとの連携を強めるとともに、学校図書館の専門的職務に携わる「学校司書*」の配置の実現を目指し、学校図書館における人的体制の整備に努めます。

(3) 保育士、保育教諭、教職員の実践的指導力の向上

読書指導に携わる保育士、保育教諭、教職員の知識、技能の向上に努めることは、子どもの読書活動の推進にとって欠かせないものです。

職員相互の情報の交換・共有、研修機会の充実、さらには公共図書館司書との情報交換の場を設けるなど、保育士、保育教諭、教職員の実践的指導力の向上に努めます。

また、保育士、保育教諭、教職員自身が、おすすめの本を保護者や子どもに伝えるなど、広く子どもの本に関する知識を得るよう努めます。

3 地域社会の支えとボランティア育成の拡大

加古川市では、これまで中学校区を一つの単位（ユニット）として、ユニット内の学校園の相互連携のもとに子どもの連続した学びや育ちを支援する「中学校区連携ユニット12」の取組を進めてまいりました。これらの取組を充実させながら、学校運営協議会*や学校園連携ユニット*を活用した「地域総がかりの教育」を進めることとしています。

子どもの読書活動推進においても、子どもが各発達段階に応じて読書への興味を広げ、深めながら、自主的な読書活動を継続していけるよう、学校園、家庭、地域、公共図書館が相互に連携、協力して取り組みます。

(1) 校種間の連携、交流による支援

子どもがあらゆる機会、場所において自主的な読書活動を行うことができるよう学校園連携ユニットを活用した取組を進めます。

① 認定こども園・幼稚園・保育所、小学校及び中学校の連携

子どもが、認定こども園・幼稚園・保育所の幼児から小学生、中学生へと成長していく中で読書活動を展開し、継続していくことができるよう相互の連携の強化に努めます。

② 異年齢交流活動の実施

「トライやる・ウィーク」において、中学生が認定こども園・幼稚園・保育所の幼児と交流を図る中で絵本の読み聞かせを行ったりするほか、読書活動に関する認定こども園・幼稚園・保育所、小学校及び中学校の相互の交流活動を展開します。

(2) 市民ボランティアの育成強化

地域での子どもの読書活動を継続的に推進していくためには、ボランティアの存在は大変重要です。読み聞かせ等のボランティアの育成・拡大を図るとともに、公共図書館や学校等活動の場の提供を行うなど、ボランティアの活用を図ります。

① ボランティアの育成・支援

ボランティアが読み聞かせやおはなし会等の事業で活動できる実践力の養成を図るために、読み聞かせやストーリーテリングに関するスキルアップ講座を公共図書館等で開催するとともに、ボランティアと公共図書館司書との合同勉強会を開催します。これにより、ボランティアの拡大に努めます。

また、学校園支援ボランティアグループに対して情報の提供を行うなど、ボランティア活動への支援を行います。

② 活動の場の提供

読み聞かせ等のボランティアの活用として、公共図書館で開催する事業をはじめ、認定こども園・幼稚園・保育所、児童クラブ、小学校及び中学校等の各施設が実施する読み聞かせやおはなし会等の様々な実践活動の場を提供します。

4 子どもの読書活動に関する啓発と理解の促進

子どもの自主的な読書活動を促すためには、大人が読書についての理解と関心を持ち、自ら読書する姿を子どもに示し、読書の楽しさを子どもに伝えていく必要があります。そのため、様々な機会を通じて子どもの読書活動の意義や重要性を広く伝え、保護者の認識を高め、家庭等で読書する時間を積極的に設けることの普及・啓発に努めます。

(1) 保護者を含めた市民への啓発

子どもの読書活動の始まりであり、基本となる家庭での読書環境の整備を促すためには、まず、保護者の理解・認識を得ることが重要です。

子どもの読書活動に対する保護者の意識・関心を高めるため、乳幼児健診等の様々な機会をとらえて保護者に向けた啓発を行うとともに、認定こども園・幼稚園・保育所や小学校及び中学校から保護者への資料の送付や懇談会等の場を通じて、子どもの読書習慣を形成するための家庭での読書環境づくりを働きかけます。

また、子どもの読書活動をテーマにした講演会や講座等の実施を通じて、子どもの読書活動の意義を保護者に伝えます。

① 「家読（うちどく）」の推進

子どもが読書習慣を身に付けるには、子どもの周りにいる大人が普段から本に親しむことが大切です。「家読（うちどく）」は「家族ふれあい読書」を意味し、家族で本を読んでコミュニケーションを図る取組です。認定こども園・幼稚園・保育所や小学校、中学校及び公共図書館等において、「家読（うちどく）」に関する啓発（親子読書の日の設定等）の推進を図り、家庭での読書環境の向上と家族の絆づくりを進めます。

ア 「家読（うちどく）」啓発ちらしの配付

市内各認定こども園、幼稚園、保育所等を通じて、保護者に「家読（うちどく）」啓発ちらしの配付を行います。また、市内各小中学校の児童・生徒に「家読（うちどく）」啓発ちらしを配付します。

イ 「家読（うちどく）」スタンプラリー等の実施

広く、公共図書館等への来館を促し、家族で本を読む機会を持てるよう、夏季休業期間を中心に、スタンプラリーを実施します。

② 「こどもの読書週間」及び「読書週間」関連事業の実施

子どもの読書活動推進の取組を広く周知するため、「こどもの読書週間*」及び「読書週間*」に関連した事業を実施します。

(2) 広報の推進

地域や関係団体等を含め広く市民の理解促進を図るため、広報紙や市のホームページに加えSNS等を活用した子どもの読書活動に関する情報の提供、公共施設でのちらしの配置やポスター掲示等により、積極的に啓発活動に努めます。

第5章 計画の推進について

この計画を効果的に推進するためには、「すべての子どもが自主的な読書活動を通じて豊かなこころを育み、生きる力を身につけることができる読書環境づくり」という共通の目標に向け、関係機関との連携のもとに組織的に施策に取り組む必要があります。

そこで、計画の推進にあたり、関係機関の代表をメンバーとする「加古川市子どもの読書活動推進連絡会」を設置し、相互に連携を図りながら、一体となって施策の実施を進めます。

* 加古川市子どもの読書活動推進連絡会

(1) 組織

連絡会を構成するメンバーは、次の表のとおりとします。

こども部こども政策課長
こども部幼児保育課長
加古川市立認定こども園・保育園園長会代表者
教育指導部社会教育・スポーツ振興課長
教育指導部中央図書館長
教育指導部中央図書館加古川図書館長
教育指導部学校教育課長
加古川市立中学校図書館教育担当校長
加古川市立小学校図書館教育担当校長
加古川市立幼稚園園長会代表者

(2) 事務局

事務局は、中央図書館に置きます。

(3) 会議

会議は、各年度の半期毎に開催し、各期の実施結果及び次年度の実施策について協議を行うほか、施策を実施するうえでの調整・協議等、必要に応じて開催するものとします。

【資料編 1】

子どもの読書活動実態調査アンケート 調査報告

令和元年度
子どもの読書活動実態調査アンケート
調査報告書

令和2年2月

加古川市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査概要	1
3.	回収状況	1
II	調査の結果	3
1.	子どもの読書活動の実態	3
(1)	読書に対する意識	3
(2)	読書量	4
(3)	本を読む理由・読まない理由	5
(4)	図書館の利用状況	6
(5)	家庭での読書環境	11
(6)	家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関	17
2.	子どもの読書活動に対する保護者（就学前の子どもをもつ保護者）の意識	23
(1)	子どもの読書活動の意義に対する認識	23
(2)	家庭での読書環境	24
(3)	保護者の子どもの読書活動に対する意識および読書状況と読み聞かせ実施状況の相関	25
(4)	公共図書館に望むこと	31
(5)	子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要なこと	32
(6)	ブックスタート事業の認知状況	33
III	資料	35

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査目的

加古川市の子どもたちを取りまく読書環境を充実させていくうえで指針となる「子どもの読書活動推進計画（第3次）」の策定にあたり、加古川市の児童、生徒および保護者に対し、読書に関する意識や読書実態を把握するため、この度「子どもの読書活動実態調査」を実施した。

2. 調査概要

- ・調査対象： * 市立小学校の児童および市立中学校の生徒
* 市立養護学校に通学する子どもの保護者
* 就学前の子どもをもつ保護者
- ・調査期間：令和元年7月
- ・調査方法：配布、回収

3. 回収状況

対象		対象人数	回答数	回収率(%)
小学校（28校）	1年生	425	425	100.0
	2年生	390	390	100.0
	3年生	410	397	96.8
	4年生	395	392	99.2
	5年生	444	438	98.6
	6年生	423	418	98.8
	合計	2,487	2,460	98.9
中学校（12校）	1年生	130	130	100.0
	2年生	146	145	99.3
	3年生	133	133	100.0
	合計	409	408	99.8
児童・生徒合計		2,896	2,868	99.0
養護学校	保護者	65	29	44.6
認定こども園・幼稚園・保育園	5歳児保護者	503	432	85.9
子育て施設・図書館(室)	未就学児保護者	250	249	99.6
保護者合計		818	710	86.8
総合計		3,714	3,578	96.3

Ⅱ 調査の結果

Ⅱ 調査の結果

1 子どもの読書活動の実態

(1) 読書に対する意識

「読書が好きか」との問いに対する回答の割合の学年別比較（％）

【平成 20 年度】



【平成 26 年度】



【令和元年度】



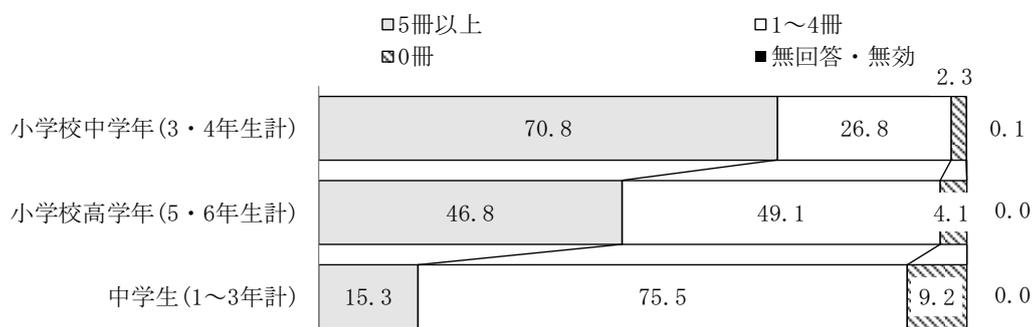
子どもの読書に対する意識(読書が好きか嫌いか)について、全学年で調査を行った。どの学年でも概ね80%程度の児童・生徒が読書が好きだと思っているが、学年が上がるにつれて「好き」の割合が減少する傾向が見られる。

経年で見ると、「好き」または「どちらかというとき好き」の割合が、小学校低学年と中学生では平成26年度で一度減少し令和元年度で増加しており、小学校中学年では平成26年度で一度増加したが令和元年度で減少している。小学校高学年では平成20年度から増加傾向にある。

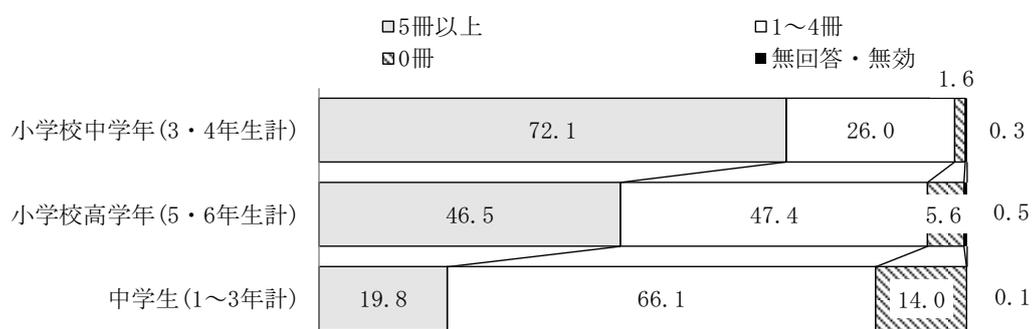
(2) 読書量

1ヶ月の読書冊数の割合の学年別比較（％）

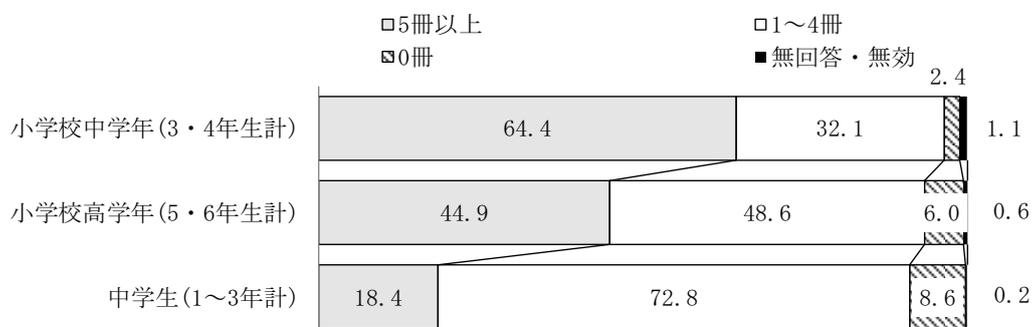
【平成20年度】



【平成26年度】



【令和元年度】



子どもの読書量(1ヶ月に読む本の冊数)について、小学校中学年以上の児童・生徒を対象に調査を行った。「月に5冊以上読む」の割合は学年が上がるにつれて減少し、「月に1～4冊」および「0冊」の割合は増加していく傾向が見られる。特に「月に5冊以上読む」の割合が小学校中学年では過半数なことに対して、小学校高学年では半数を下回り、中学生では20%を切る結果となった。

経年で見ると、小学校中学年と小学校高学年では「月に5冊以上読む」の割合が今年度の調査で比較的大きく減少している。中学生においては平成26年度と比較して「月に1～4冊読む」の割合が増加し、「0冊」の割合が減少している。

(3) 本を読む理由、読まない理由

本を読む理由、読まない理由の学年別比較 (%)

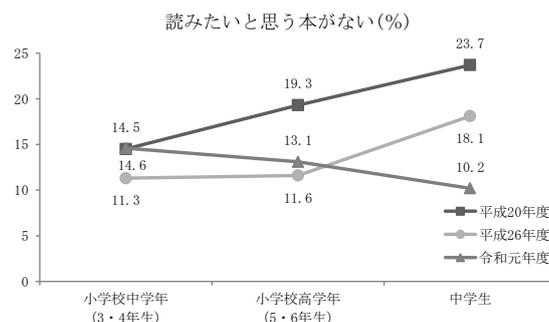
平成20年度	読む理由 (上位3項目)		読まない理由 (上位3項目)	
小学校中学年 (3・4年生計)	読むのが楽しい	65.4	スポーツをしたりする方が楽しい	36.2
	いろんなことがわかる	28.1	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	21.3
	先生や家の人に言われる	2.7	読みたいと思う本がない	14.5
小学校高学年 (5・6年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	55.1	スポーツをしたりする方が楽しい	39.2
	新しい知識を得ることができる	21.6	読みたいと思う本がない	19.3
	自分の考えが広がる	10.1	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	14.2
中学生 (1～3年計)	いろいろ想像するのが楽しい	50.6	読みたいと思う本がない	23.7
	新しい知識を得ることができる	20.2	スポーツをしたりする方が楽しい	22.7
	自分の考えが広がる	15.4	読書が嫌い	12.4

平成26年度	読む理由 (上位3項目)		読まない理由 (上位3項目)	
小学校中学年 (3・4年生計)	読むのが楽しい	56.1	スポーツをしたりする方が楽しい	36.1
	いろんなことがわかる	35.5	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	24.8
	先生や家の人に言われる	3.4	勉強や習い事で読む時間がない	14.7
小学校高学年 (5・6年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	51.8	スポーツをしたりする方が楽しい	38.6
	新しい知識を得ることができる	21.8	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	20.3
	自分の考えが広がる	12.7	読みたいと思う本がない	11.6
中学生 (1～3年計)	いろいろ想像するのが楽しい	51.3	スポーツをしたりする方が楽しい	27.9
	新しい知識を得ることができる	19.8	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	18.5
	自分の考えが広がる	14.9	読みたいと思う本がない	18.1

令和元年度	読む理由 (上位3項目)		読まない理由 (上位3項目)	
小学校中学年 (3・4年生計)	読むのが楽しい	54.7	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	26.8
	いろんなことがわかる	34.2	スポーツをしたりする方が楽しい	22.8
	先生や家の人に言われる	1.8	読みたいと思う本がない	14.6
小学校高学年 (5・6年生計)	いろいろ想像するのが楽しい	48.2	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	26.7
	新しい知識を得ることができる	24.0	スポーツをしたりする方が楽しい	21.5
	その他	11.9	読みたいと思う本がない	13.1
中学生 (1～3年計)	いろいろ想像するのが楽しい	51.7	スポーツをしたりする方が楽しい	24.7
	新しい知識を得ることができる	16.9	テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい	24.1
	その他	12.8	読みたいと思う本がない	10.2

本を読む児童・生徒に「読む理由」を聞いてみると、小学校中学年では「読むのが楽しい」が最も多く、次に「いろんなことがわかる」、小学校高学年、中学生では「いろいろ想像するのが楽しい」「新しい知識を得ることができる」の順に多く、平成20年度、平成26年度と同じであった。

「読まない理由」については、中学生は平成26年度と同じ順位の結果になったが、小学校中学年、小学校高学年では「テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい」が1位になっている。令和元年度は、「読みたいと思う本がない」の割合は中学生で減少率が大きい、小学校中学年、小学校高学年では平成26年度より増加している。

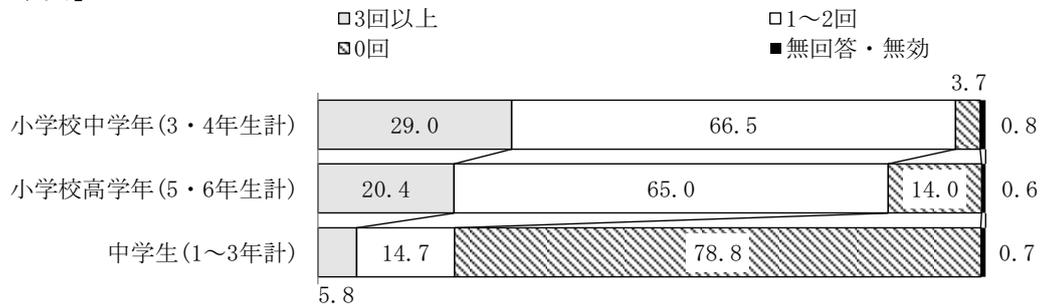


(4) 図書館の利用状況

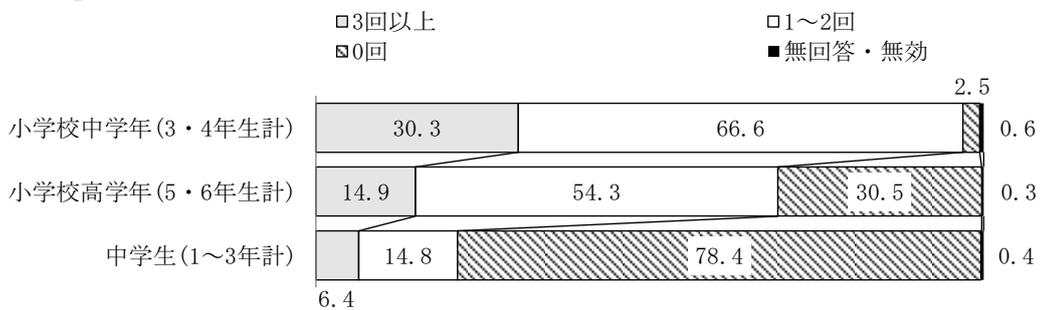
① 学校図書館

1 週間の学校図書の利用状況 (%)

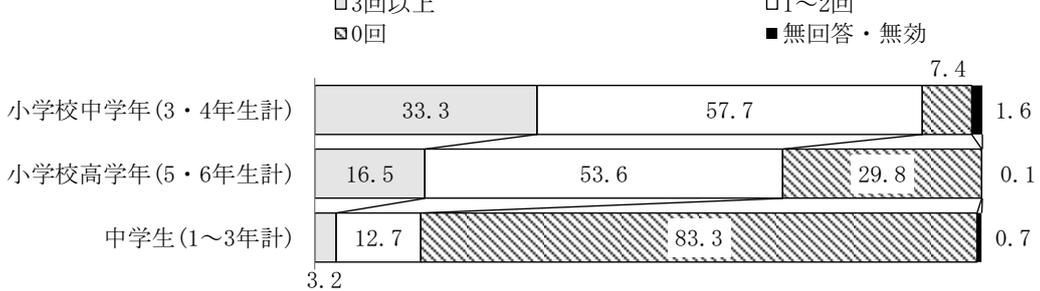
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】



【令和元年度】

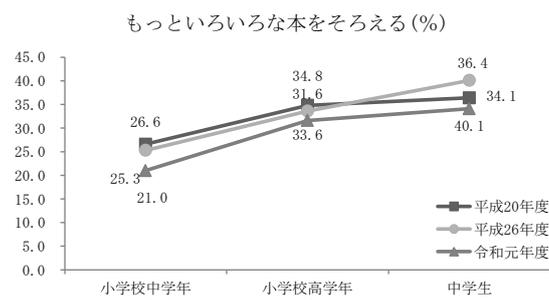


学校図書館の利用状況について、1 週間の利用回数を調査した。小学校中学年と小学校高学年は「週 1~2 回」が最も多く、中学生は「全く行かない 0 回」が最も多かった。この状況は平成 20 年度および平成 26 年度と同じである。

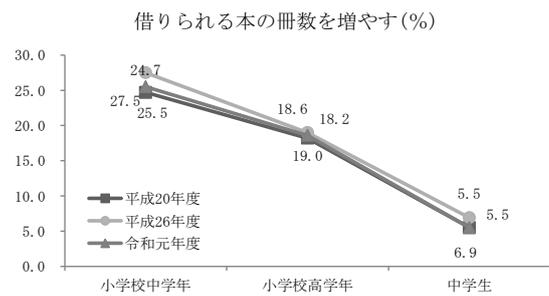
経年で見ると、小学校中学年と小学校高学年では「週 3 回以上」の割合が平成 26 年度と比較して増加しているが、中学生では 3.2%まで減少し、「全く行かない 0 回」は 80%を超えた。

学校図書館に期待することの学年別比較 (%)

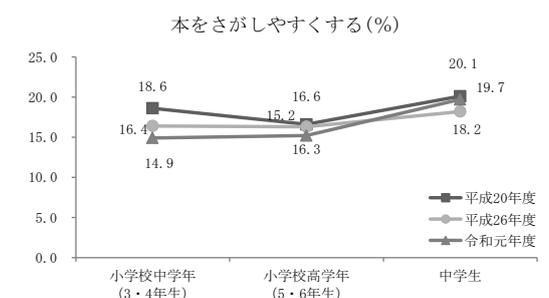
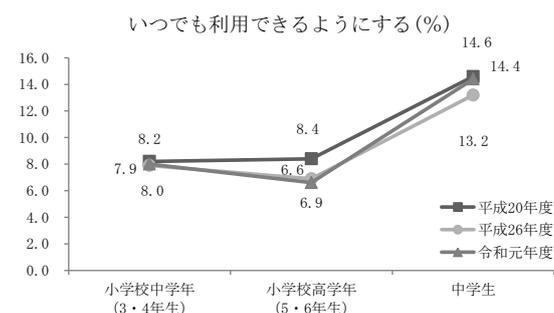
平成20年度	読む理由 (上位3項目)	
小学校中学年 (3・4年生計)	もっといろいろな本をそろえる	26.6
	借りられる本の数をふやす	24.7
	本をさがしやすくする	18.6
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	34.8
	借りられる本の数をふやす	18.2
	本をさがしやすくする	16.6
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	36.4
	本をさがしやすくする	20.1
	いつでも利用できるようにする	14.6



平成26年度	読む理由 (上位3項目)	
小学校中学年 (3・4年生計)	借りられる本の数をふやす	27.5
	もっといろいろな本をそろえる	25.3
	本をさがしやすくする	16.4
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	33.6
	借りられる本の数をふやす	19.0
	本をさがしやすくする	16.3
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	40.1
	本をさがしやすくする	18.2
	いつでも利用できるようにする	13.2



令和元年度	読む理由 (上位3項目)	
小学校中学年 (3・4年生計)	借りられる本の数をふやす	25.5
	もっといろいろな本をそろえる	21.0
	本をさがしやすくする	14.9
小学校高学年 (5・6年生計)	もっといろいろな本をそろえる	31.6
	借りられる本の数をふやす	18.6
	本をさがしやすくする	15.2
中学生 (1～3年計)	もっといろいろな本をそろえる	34.1
	本をさがしやすくする	19.7
	いつでも利用できるようにする	14.4



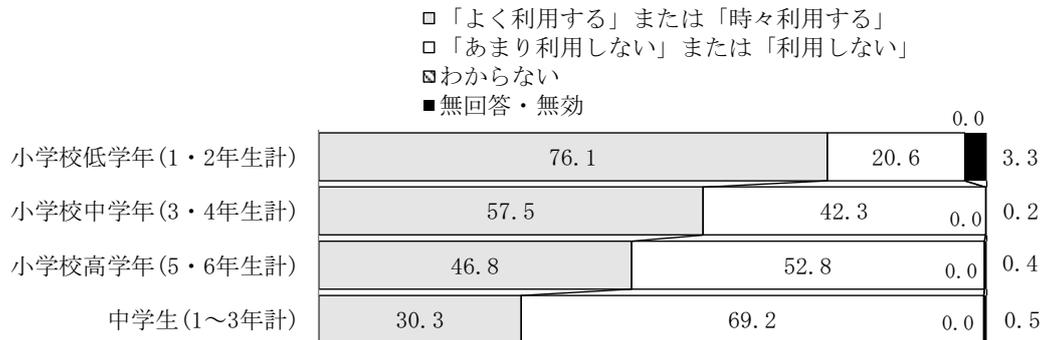
学校図書館に期待することについては、小学校中学年で「借りられる本の数をふやす」の割合が25.5%と最も高く、小学校高学年、中学生では「もっといろいろな本をそろえる」の割合が31.6%、34.1%と最も高かった。学年が上がるにつれて本の種類の充実を求める声が多くなっている。

経年で見ると、平成26年度と比較して小学校中学年、小学校高学年および中学生の上位3項目の内容に変化は見られないが、平成20年度からどの学年を通して「本をさがしやすくする」という項目が必ず入っており、児童・生徒が目的の本を見つけやすくする工夫が求められる。また、中学生のみ、毎回「いつでも利用できるようにする」という項目が入っており、学校図書館の1週間の利用回数について、「全く行かない0回」が80%を超えていることと関連している。

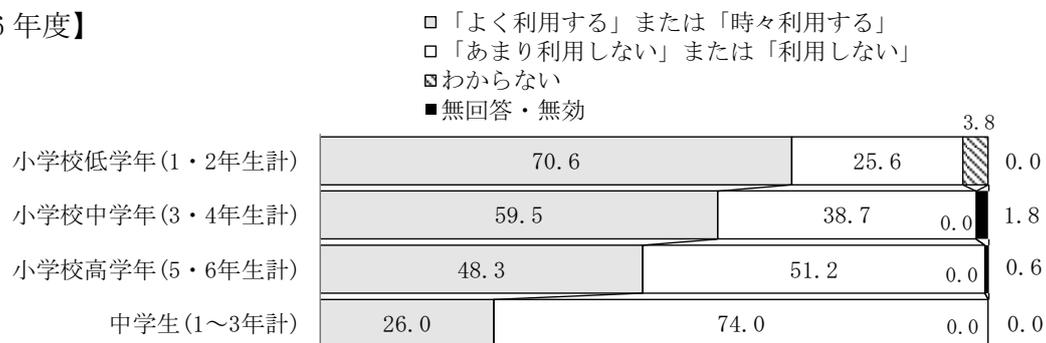
②学校以外の図書

学校以外の図書館の利用状況 (%)

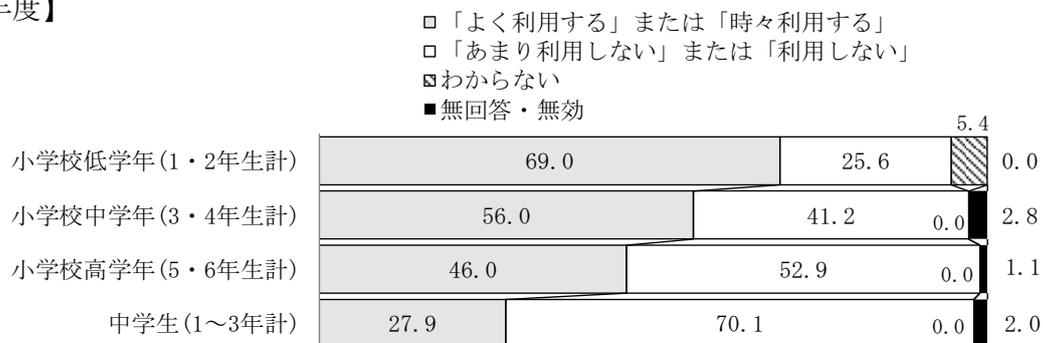
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】



【令和元年度】

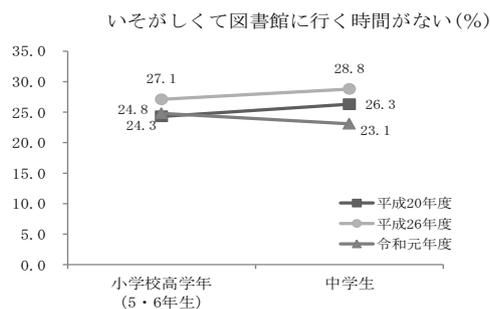


学校以外の図書館の利用状況について、「よく利用する」「時々利用する」の割合は学年が上がるにつれて減少している。小学校低学年では過半数であるのに対し、中学生では30%を下回る結果となった。

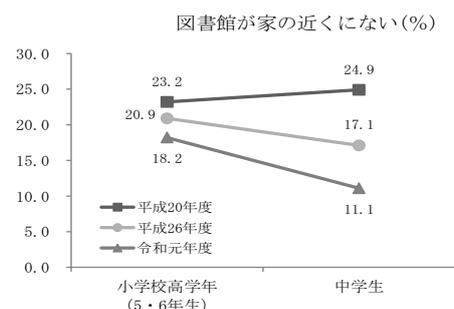
経年で見ると、平成26年度からは小学生において「よく利用する」「時々利用する」の割合が減少し、「あまり利用しない」「利用しない」の割合が増加している。中学生においては、「よく利用する」「時々利用する」の割合がわずかであるが増加している。

学校以外の図書館を利用しない理由の学年別比較 (%)

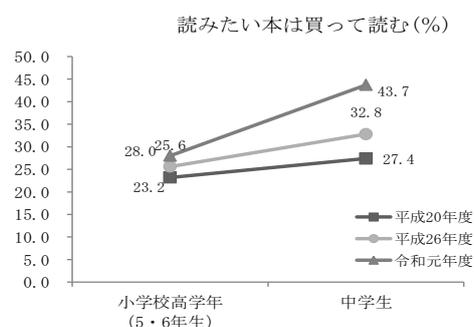
平成20年度	利用しない理由 (上位3項目)	
小学校高学年 (5・6年生計)	いそがしくて図書館に行く時間がない	24.3
	図書館が家の近くにない	23.2
	読みたい本は買って読む	23.2
中学生 (1～3年計)	読みたい本は買って読む	27.4
	いそがしくて図書館に行く時間がない	26.3
	図書館が家の近くにない	24.9



平成26年度	利用しない理由 (上位3項目)	
小学校高学年 (5・6年生計)	いそがしくて図書館に行く時間がない	27.1
	読みたい本は買って読む	25.6
	図書館が家の近くにない	20.9
中学生 (1～3年計)	読みたい本は買って読む	32.8
	いそがしくて図書館に行く時間がない	28.8
	図書館が家の近くにない	17.1



令和元年度	利用しない理由 (上位3項目)	
小学校高学年 (5・6年生計)	読みたい本は買って読む	28.0
	いそがしくて図書館に行く時間がない	24.8
	図書館が家の近くにない	18.2
中学生 (1～3年計)	読みたい本は買って読む	43.7
	いそがしくて図書館に行く時間がない	23.1
	図書館に読みたい本がない	11.1

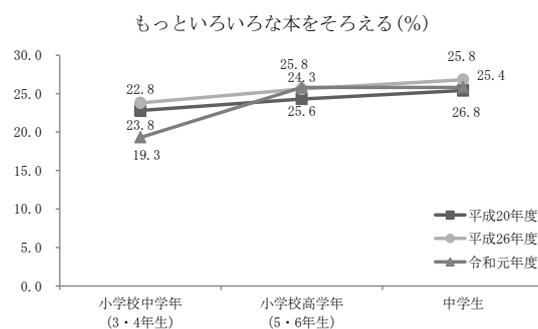


小学校高学年と中学生に「利用しない理由」を聞くと、どちらも「読みたい本は買って読む」の割合が最も高く、次に「いそがしくて図書館に行く時間がない」、「図書館が家の近くにない」という結果になった。

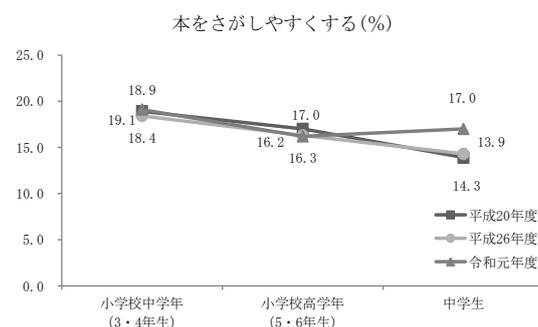
経年で見ると、小学校高学年において平成26年度までは「いそがしくて図書館に行く時間がない」の割合が最も高かったが、令和元年度では「読みたい本は買って読む」が上回った。

学校以外の図書館に期待することの学年別比較（％）

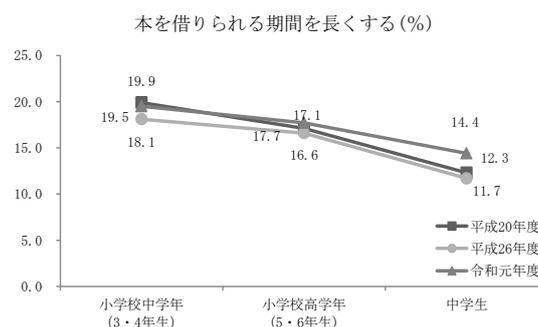
平成20年度	期待すること（上位3項目）	
小学校中学年 （3・4年生計）	本を借りられる期間を長くする	22.8
	もっといろいろな本をそろえる	19.9
	本をさがしやすくする	18.9
小学校高学年 （5・6年生計）	もっといろいろな本をそろえる	24.3
	本を借りられる期間を長くする	17.1
	本をさがしやすくする	17.0
中学生 （1～3年計）	もっといろいろな本をそろえる	25.4
	本をさがしやすくする	18.6
	本を借りられる期間を長くする	13.9



平成26年度	期待すること（上位3項目）	
小学校中学年 （3・4年生計）	本を借りられる期間を長くする	23.8
	もっといろいろな本をそろえる	18.4
	本をさがしやすくする	18.4
小学校高学年 （5・6年生計）	もっといろいろな本をそろえる	25.6
	本を借りられる期間を長くする	16.6
	本をさがしやすくする	16.3
中学生 （1～3年計）	もっといろいろな本をそろえる	26.8
	本をさがしやすくする	15.2
	本を借りられる期間を長くする	14.3



令和元年度	期待すること（上位3項目）	
小学校中学年 （3・4年生計）	本を借りられる期間を長くする	19.5
	もっといろいろな本をそろえる	19.3
	本をさがしやすくする	19.1
小学校高学年 （5・6年生計）	もっといろいろな本をそろえる	25.8
	本を借りられる期間を長くする	17.7
	本をさがしやすくする	16.2
中学生 （1～3年計）	もっといろいろな本をそろえる	25.8
	本をさがしやすくする	17.0
	本を借りられる期間を長くする	14.4



学校以外の図書館に期待することでは、小学校中学年で「本を借りられる期間を長くする」の割合が19.5％と最も高く、小学校高学年と中学生では「いろいろな本をそろえる」の割合がどちらも25.8％と最も高かった。

経年で見ると、平成20年度からすべての学年において上位3項目の内容に変化は見られなかった。

(5) 家庭での読書環境

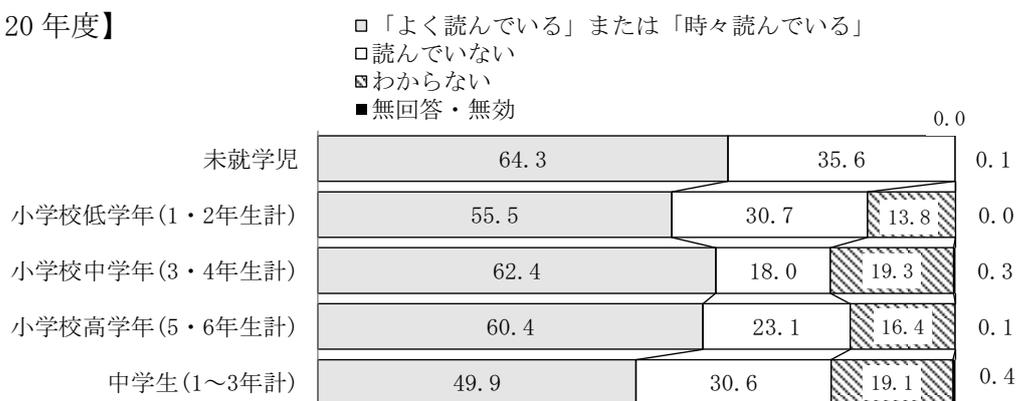
家庭での読書環境として、

- ①「家の人とはふだんから本を読んでいるか」(全員)
- ②「家の人に本をよく読んでもらうか」(未就学児、小学校低学年)
- ③「小さいころに家の人に本をよくよんでもらったか」(小学校中学年)
- ④「家の人と本のことについて話しをすることがあるか」(小学校高学年以上)
- ⑤「家の人に本をよく読むように言われることがあるか」(小学校中学年以上)
- ⑥「家に自分の本を持っているか」(小学校中学年以上)

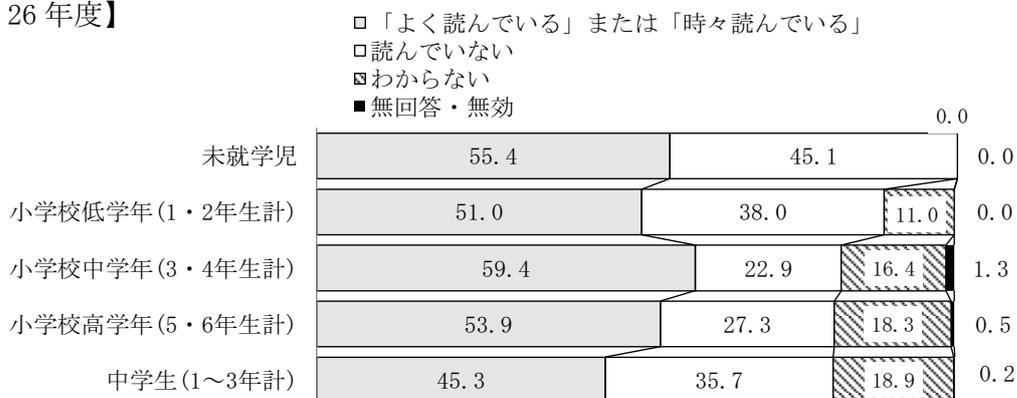
ということについて聞いた。

①家の人とはふだんから本を読んでいるか(%) (全員)

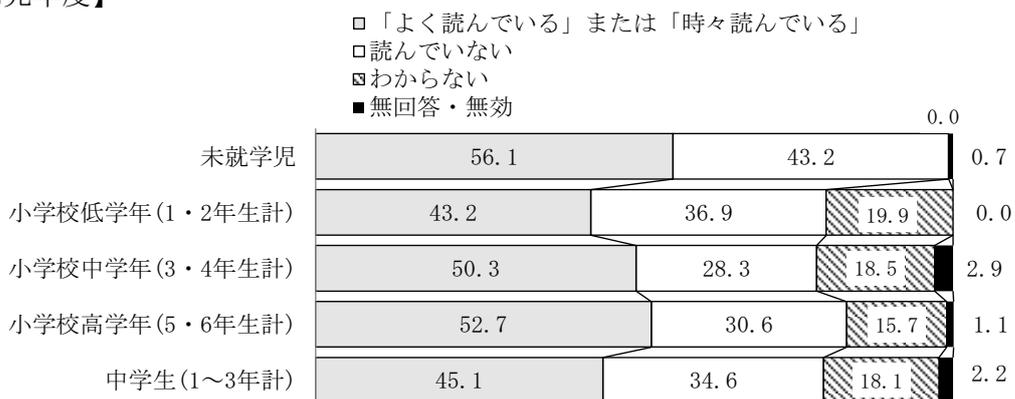
【平成20年度】



【平成26年度】



【令和元年度】

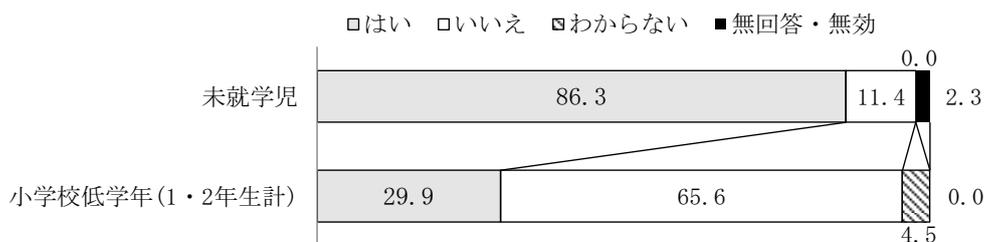


「家の人によから本を読んでいるか」については、「よく読んでいる」「時々読んでいる」の割合が、どの学年も概ね50%近くあるが、小学校低学年と中学生では40%台という結果になった。

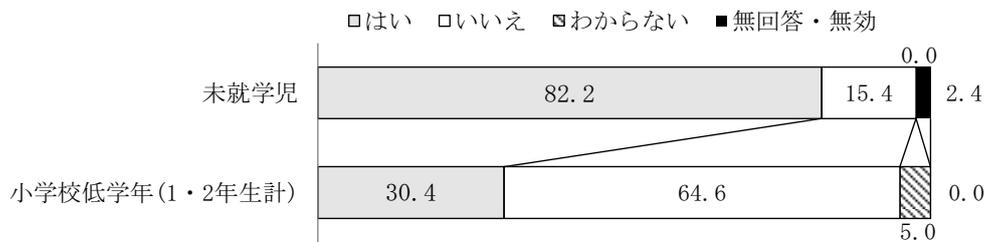
経年で見ると、平成26年度と比較して未就学児の保護者の読んでいる割合は少し増加したが、ほかの学年では減少している。また、平成20年度から比較するとすべての学年において減少傾向にある。

②家の人によく本を読んでもらうか (%) (未就学児、小学校低学年)

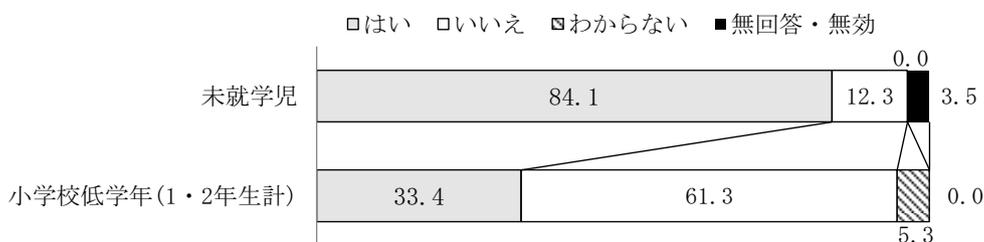
【平成20年度】



【平成26年度】



【令和元年度】



「家の人によく本を読んでもらうか」については、未就学児では「はい」の割合が84.1%となっているが、小学校低学年になると33.4%と半数を下回る結果となった。

経年で見ると、平成20年度から小学校低学年においては「はい」の割合が、わずかだが増加している。

③小さいころに家の人に本をよく読んでもらったか (%) (小学校中学年以上)

【平成 20 年度】

- 「よく読んでもらった」または「たまに読んでもらった」
- 読んでもらったことはない
- ▨ 覚えていない
- 無回答・無効



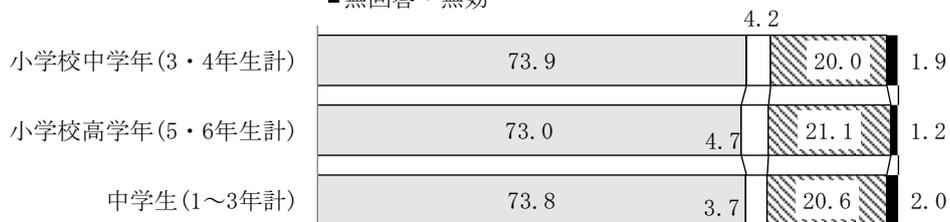
【平成 26 年度】

- 「よく読んでもらった」または「たまに読んでもらった」
- 読んでもらったことはない
- ▨ 覚えていない
- 無回答・無効



【令和元年度】

- 「よく読んでもらった」または「たまに読んでもらった」
- 読んでもらったことはない
- ▨ 覚えていない
- 無回答・無効

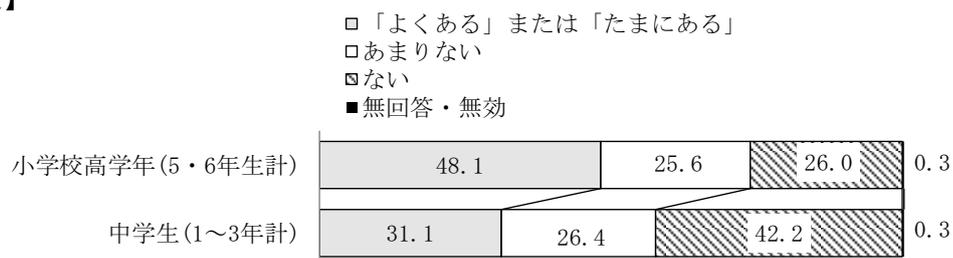


「小さいころに家の人によく本を読んでもらったか」については、すべての学年において「よく読んでもらった」「たまに読んでもらった」の割合が70%を超えている。しかし、依然として「読んでもらったことはない」、「覚えていない」が、20%を超えている。

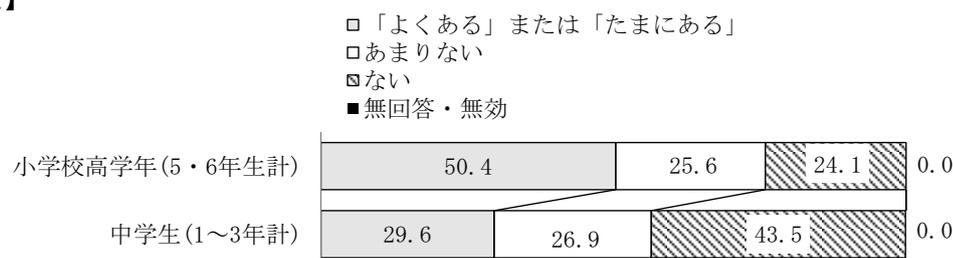
経年で見ると、小学校中学年、小学校高学年の読んでもらったと答えた割合が平成26年度と比較するとわずかに減少しているが、中学生は増加している。

④家の人と本のことについて話しをすることがあるか (%) (小学校高学年以上)

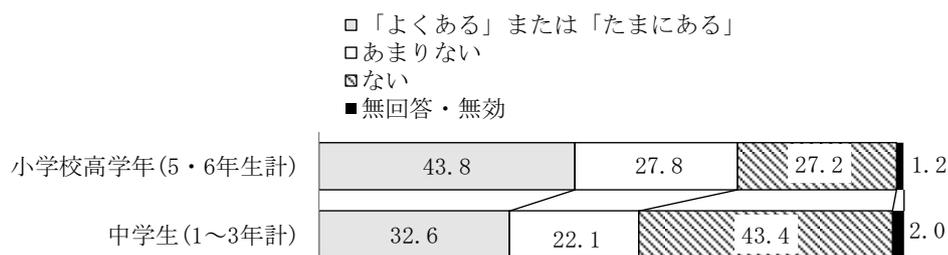
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】



【令和元年度】



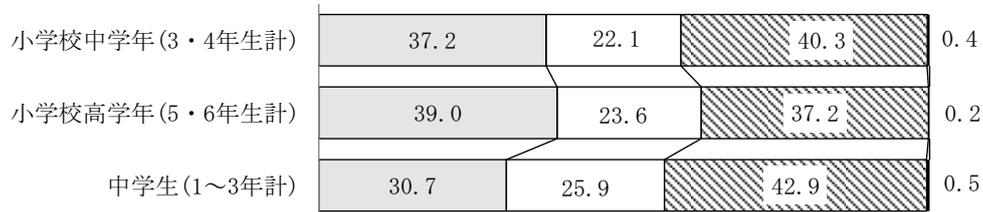
「家の人と本のことについて話しをすることがあるか」については、「よくある」「たまにある」の割合が小学校高学年で43.8%、中学生で32.6%となった。

経年で見ると、中学生では「よくある」「たまにある」の割合が平成26年度で一度減少したが、令和元年度では増加した。小学校高学年では平成26年度で一度増加したが、令和元年度では比較的大きく減少している。

⑤家の人に、本をよく読むように言われることがあるか (%) (小学校中学年以上)

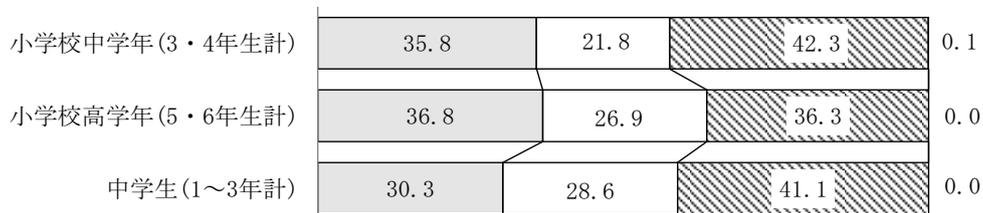
【平成 20 年度】

- 「よくある」または「たまにある」
- あまりない
- ▨ ない
- 無回答・無効



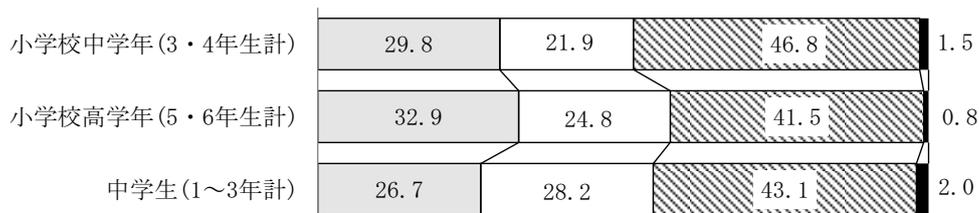
【平成 26 年度】

- 「よくある」または「たまにある」
- あまりない
- ▨ ない
- 無回答・無効



【令和元年度】

- 「よくある」または「たまにある」
- あまりない
- ▨ ない
- 無回答・無効

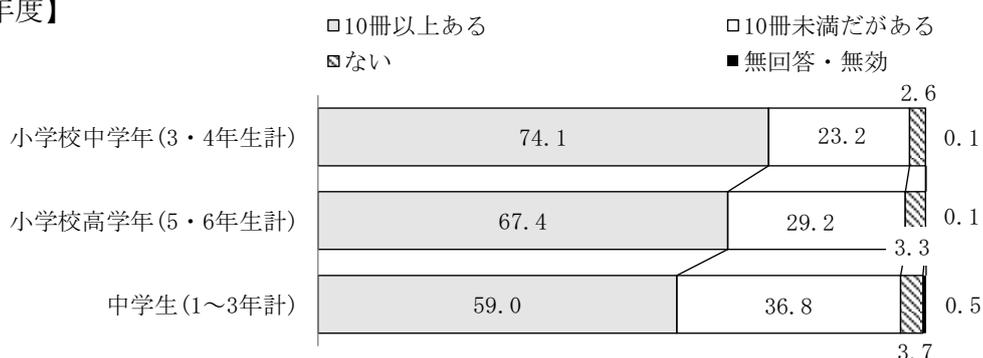


「家の人に、本をよく読むように言われることがあるか」については、「よくある」「たまにある」の割合が、小学校中学年で29.8%、小学校高学年で32.9%、中学生で26.7%となった。

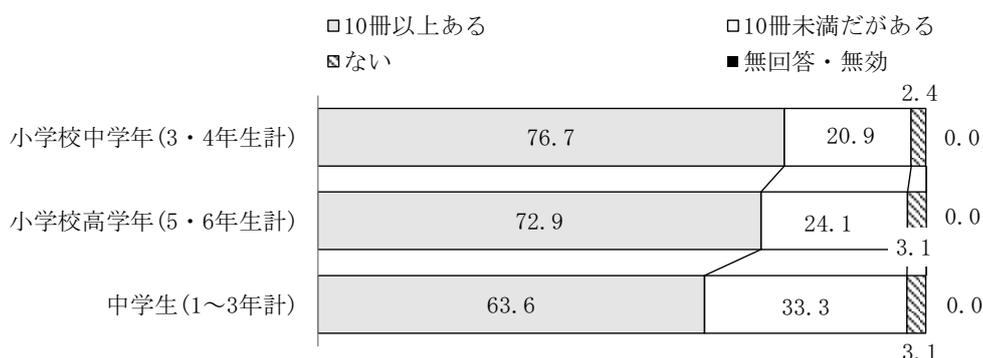
経年で見ると、すべての学年において「よくある」「たまにある」の割合が平成20年度から減少傾向にあり、家の人が児童・生徒に対して本を読むよう言うことが少なくなっていると考えられる。

⑥家に自分の本を持っているか (%) (小学校中学年以上)

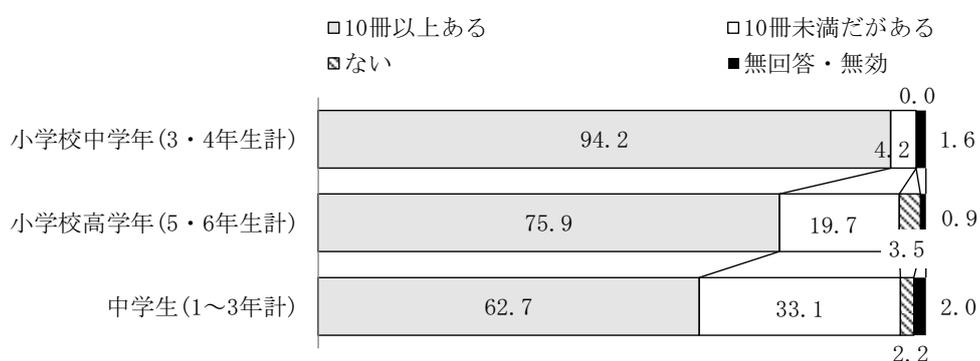
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】



【令和元年度】



「家に自分の本を持っているか」について、すべての学年において「10冊以上ある」の割合が最も高くなっている。特に小学校中学年においては90%を超えており、高い数値であることが分かる。しかし、小学校高学年と中学生では、依然として「ない」と回答した児童・生徒がいる。

経年で見ると、「10冊以上ある」の割合が、小学校中学年と小学校高学年では平成20年度から増加傾向にある。中学生においては平成26年度に一度増加したが、令和元年度で約1%減少した。

(6) 家庭での読書環境と児童・生徒の読書に対する意識の相関

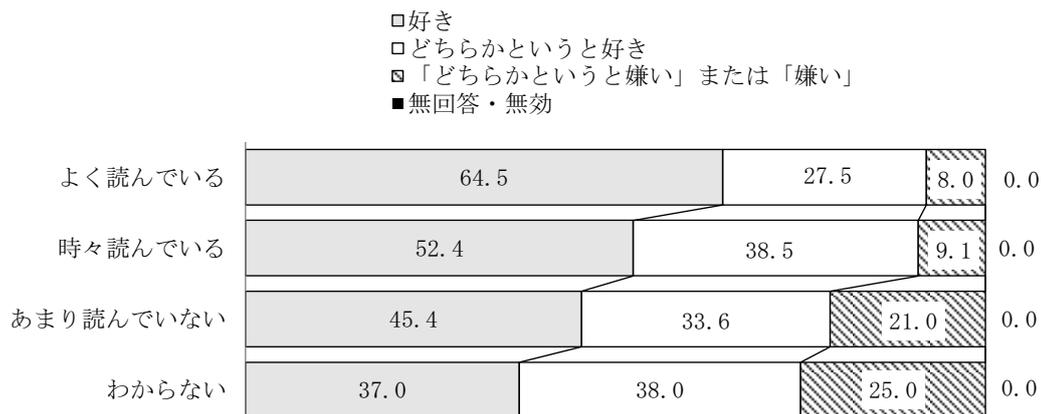
家庭での読書環境が児童・生徒の読書活動に影響するかどうかの関係をみるため、

- ①「家の人とはふだんから本を読んでいるか」と「読書の好き嫌い」の相関、
- ②「小さい頃に家の人によく本を読んでもらったか」と「読書の好き嫌い」の相関をみた。

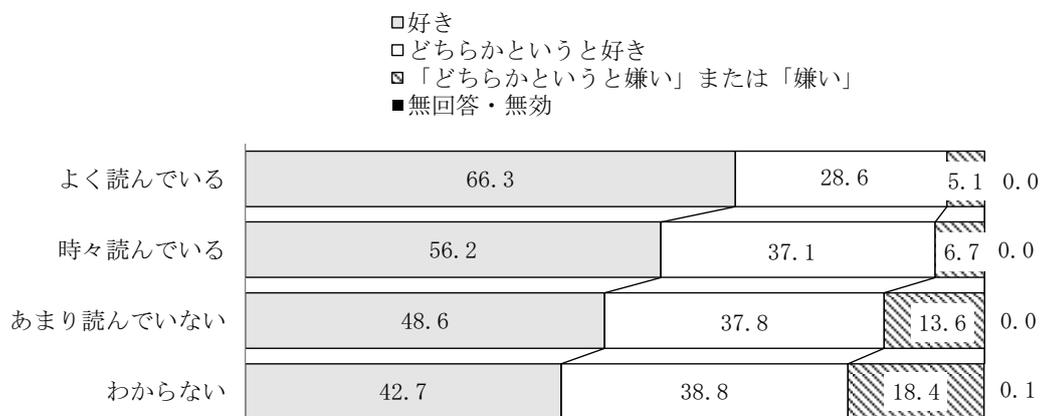
①家の中の読書状況と子どもの読書に対する意識の相関 (%)

ア 小学校中学年 (3・4年生)

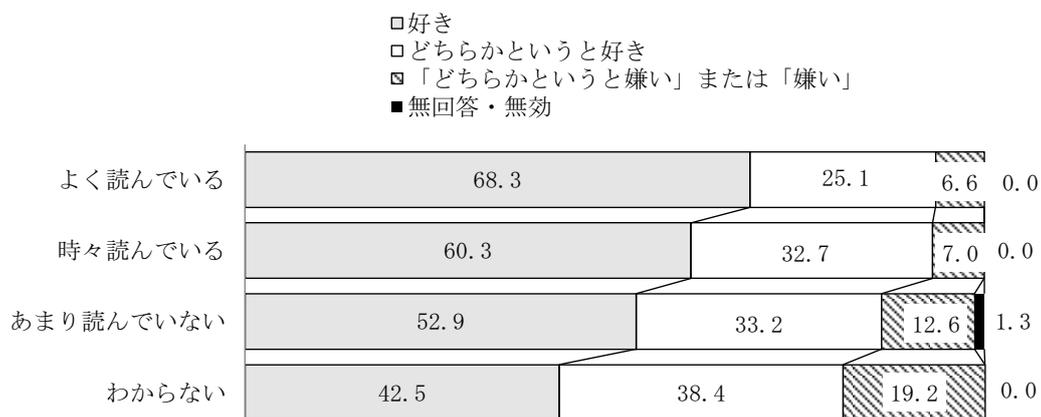
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】

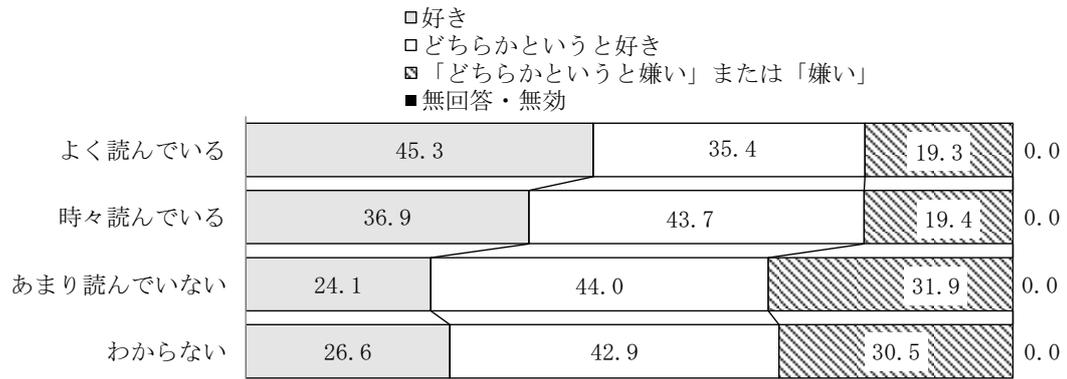


【令和元年度】

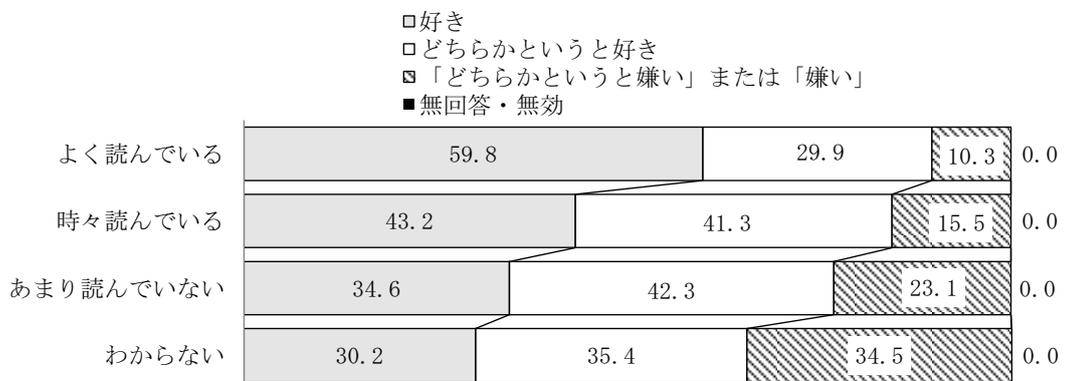


イ 小学校高学年（5・6年生）

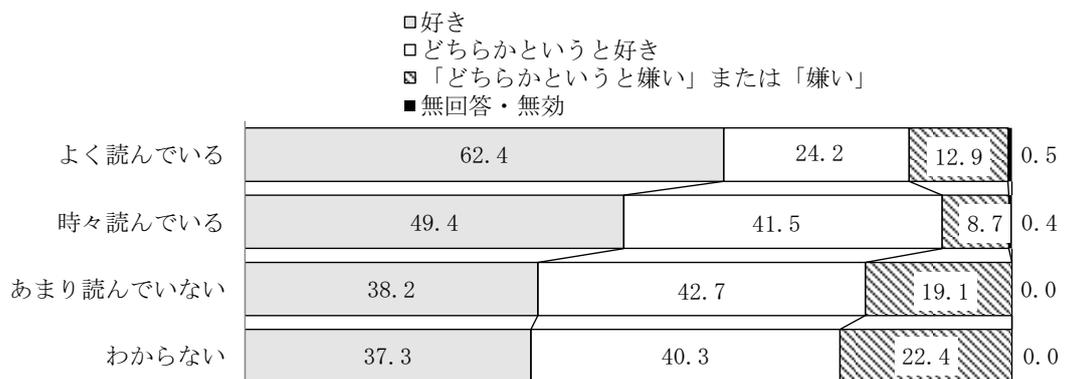
【平成20年度】



【平成26年度】

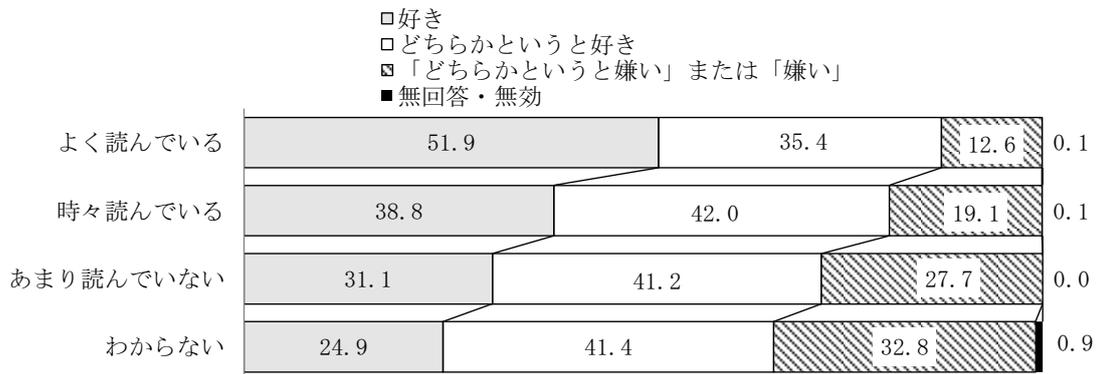


【令和元年度】

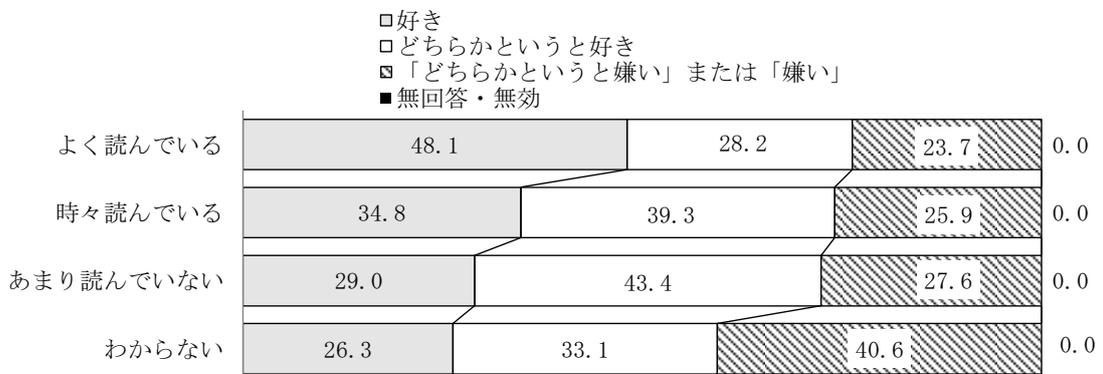


ウ 中学生（1～3年生）

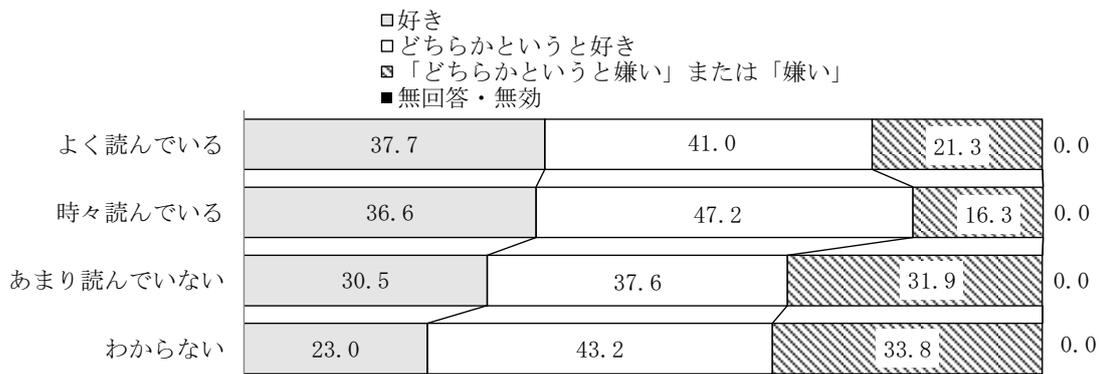
【平成20年度】



【平成26年度】



【令和元年度】



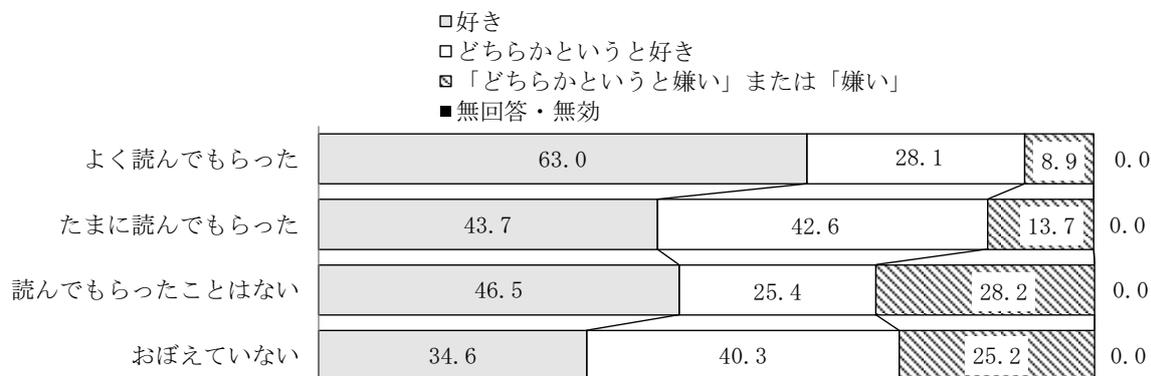
「家の人ふだんから本を読んでいるか」と「読書の好き嫌い」の相関では、すべての学年において、「家の人ふだんからよく本を読んでいる」と答えた児童・生徒ほど読書が「好き」または「どちらかという好き」と答えた割合が高く、反対に「家の人ふだんから本をあまり読んでいない」と答えた児童・生徒ほど読書が「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた割合が高かった。

経年で見ると、小学校中学年と高学年において、「家の人ふだんから本をあまり読んでいない」と答えた児童・生徒が、読書が「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた割合は減少している。

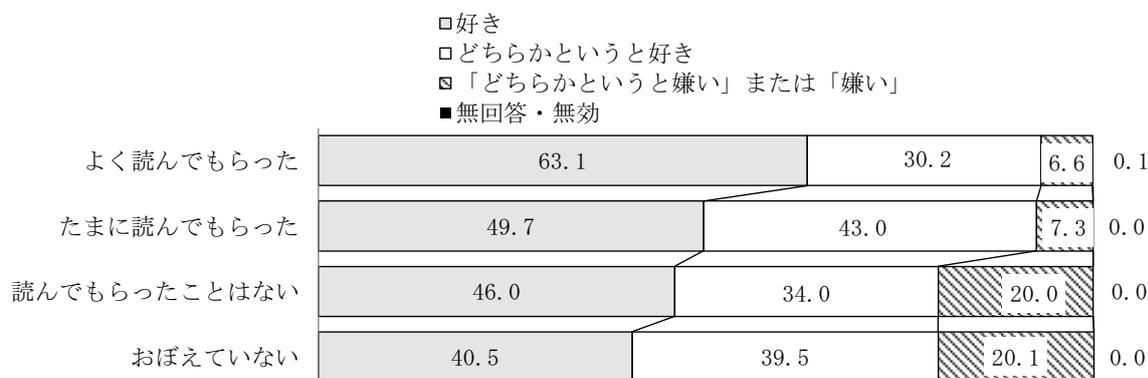
②家の人の読み聞かせの状況と子どもの読書に対する意識の相関 (%)

ア 小学校中学年 (3・4年生)

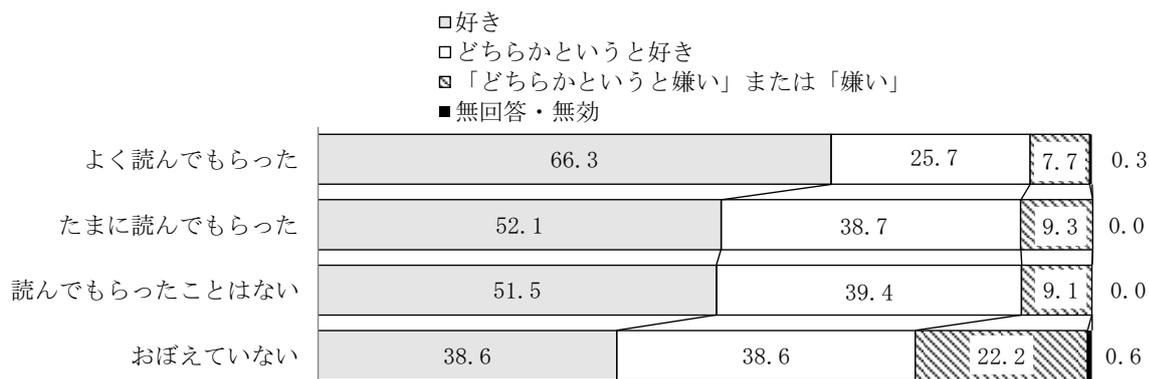
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】

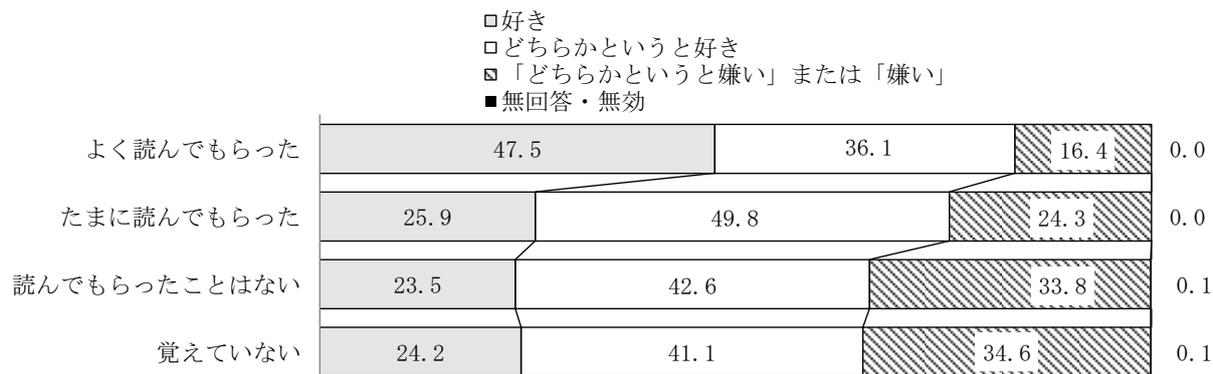


【令和元年度】

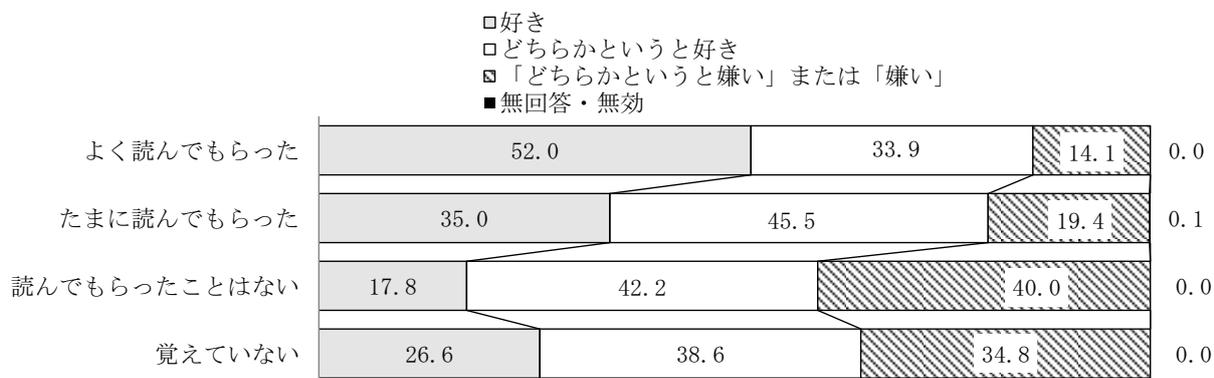


イ 小学校高学年（5・6年生）

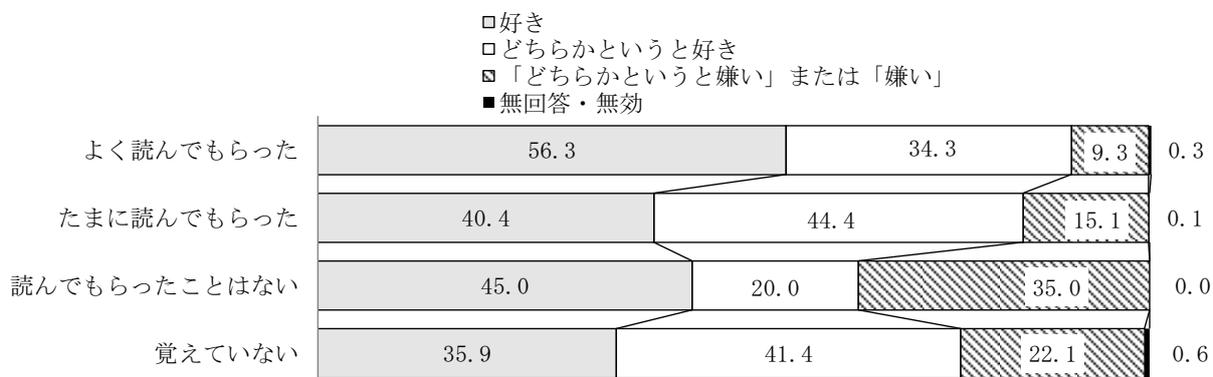
【平成20年度】



【平成26年度】

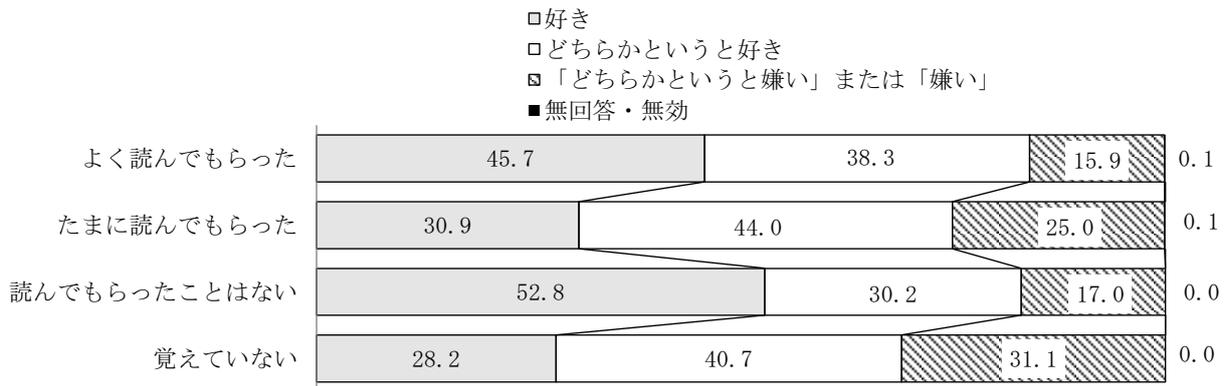


【令和元年度】

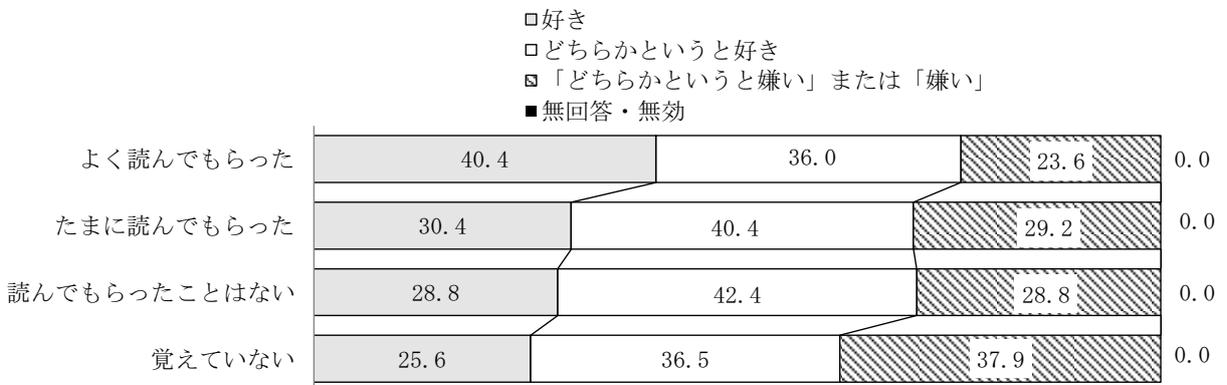


ウ 中学生（1～3年生）

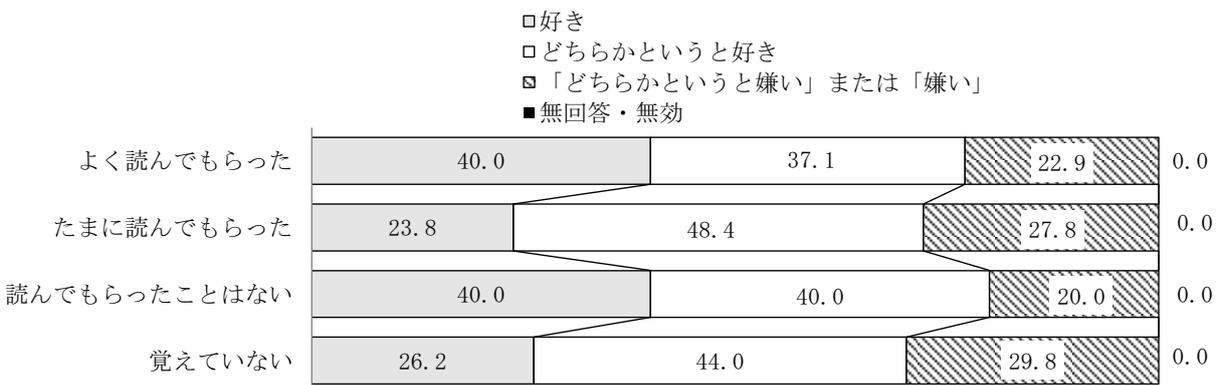
【平成20年度】



【平成26年度】



【令和元年度】



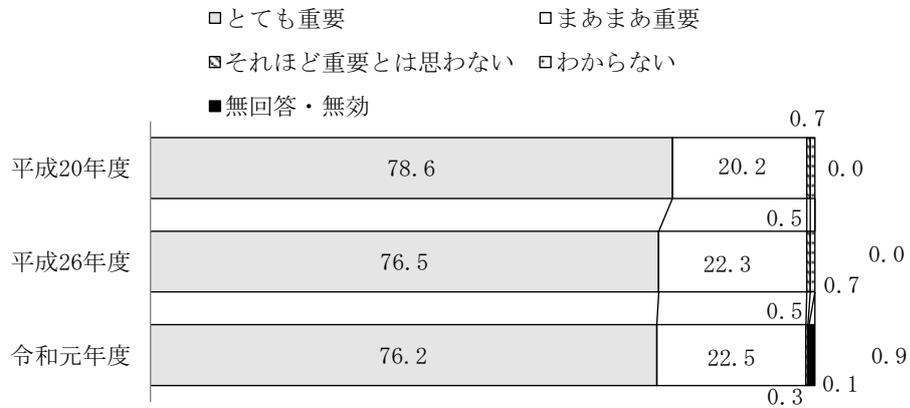
令和元年度の「小さい頃に家の人によく本を読んでもらったか」と「読書の好き嫌い」の相関では、小学校高学年を見ると、小さいころに家の人によく本を読んでもらった児童が読書を「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた割合と、小さいころに家の人に読んでもらったことはない児童が読書を「どちらかという嫌い」または「嫌い」と答えた割合には大きな差があった。

経年で見ると、小学校中学年、高学年においては、小さいころに家の人に本を読んでもらったことはない児童でも、読書が「好き」または「どちらかという好き」と答える割合が増加している。

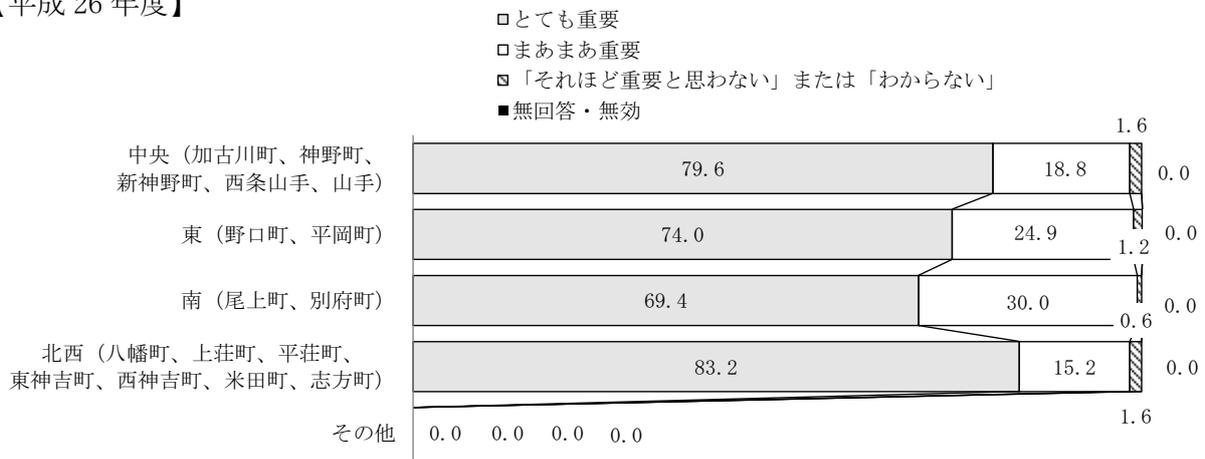
2 子どもの読書活動に対する保護者（就学前の子どもをもつ保護者）の意識

(1) 子どもの読書活動の意義に対する認識

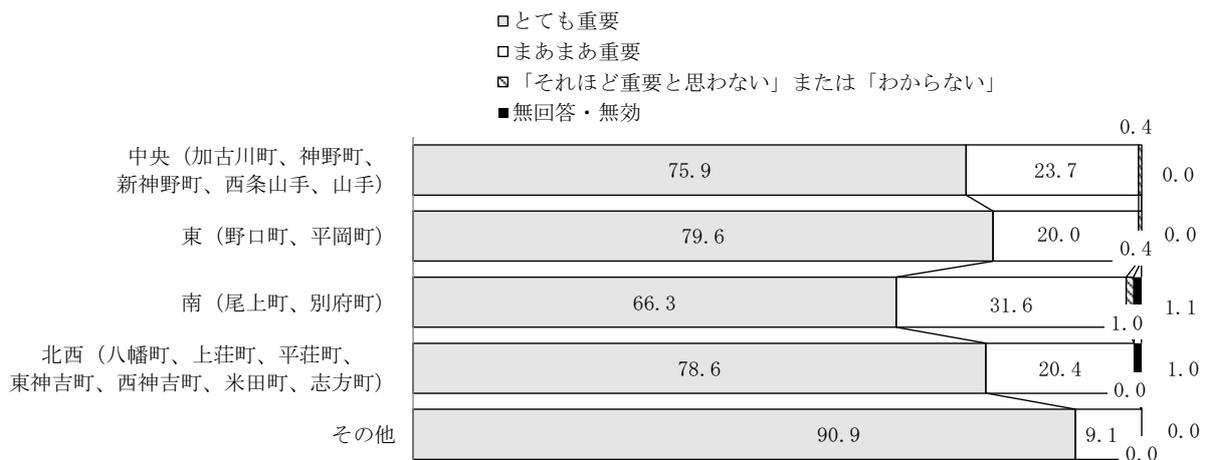
子どもの成長において読書は重要だと考えるか（％）



【平成 26 年度】



【令和元年度】

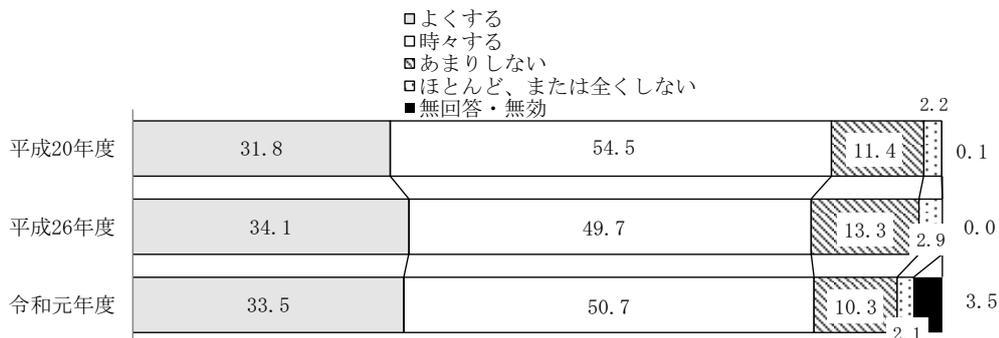


子どもの読書活動の意義について保護者の認識を聞いたところ、「子どもの成長において読書はとても重要だと思う」の割合が76.2%となり最も高かった。ただし、経年で見ると減少傾向にある。

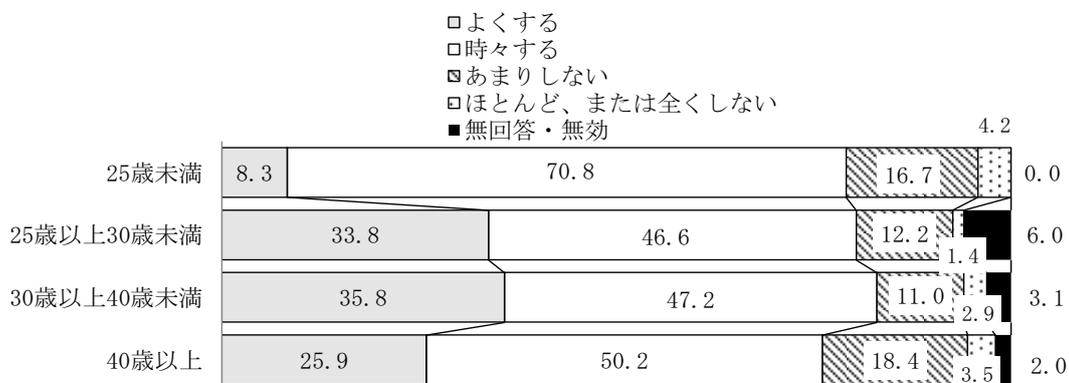
エリア別で見ると、その他を除き東部エリアに居住する保護者の「子どもの成長において読書はとても重要だと思う」と答えた割合が最も高く、子どもへの読書に対する意識が高いことが分かる。

(2) 家庭での読書環境

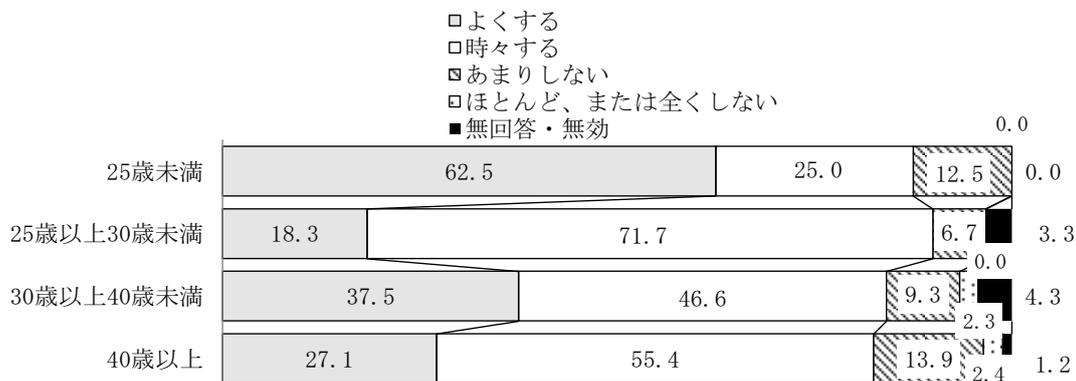
子どもに読み聞かせをするか (%)



【平成26年度】



【令和元年度】



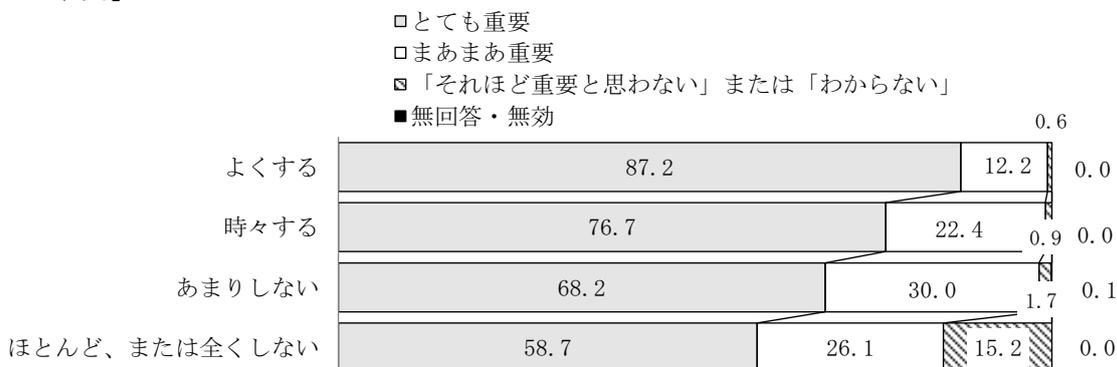
子どもへの読み聞かせでは、「よくする」「時々する」の割合が80%を超えており、読み聞かせをしている家庭が多いことが分かる。経年で見てもこの傾向は変わっていない。

保護者の年齢別では、25歳未満の保護者の読み聞かせをしている割合が62.5%と最も高く、平成26年度から大幅に増加している。ただ、「よくする」「時々する」をあわせた割合はどの保護者の年齢でも80%を超えており、多くの家庭で子どもへの読み聞かせを行っていることが分かる。

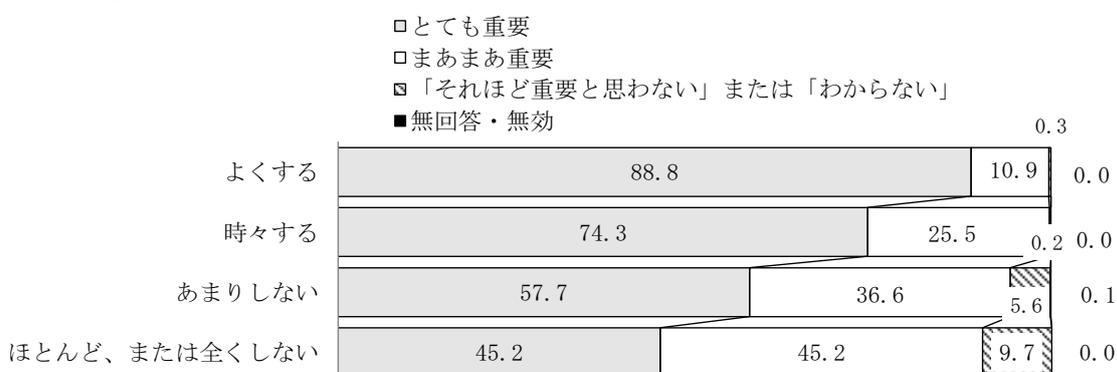
(3) 保護者の子どもの読書活動に対する意識および読書状況と読み聞かせ実施状況の相関

① 「子どもの読解力等を育てるうえで読書は重要だと考えるか」と「読み聞かせの実施状況」の相関 (%)

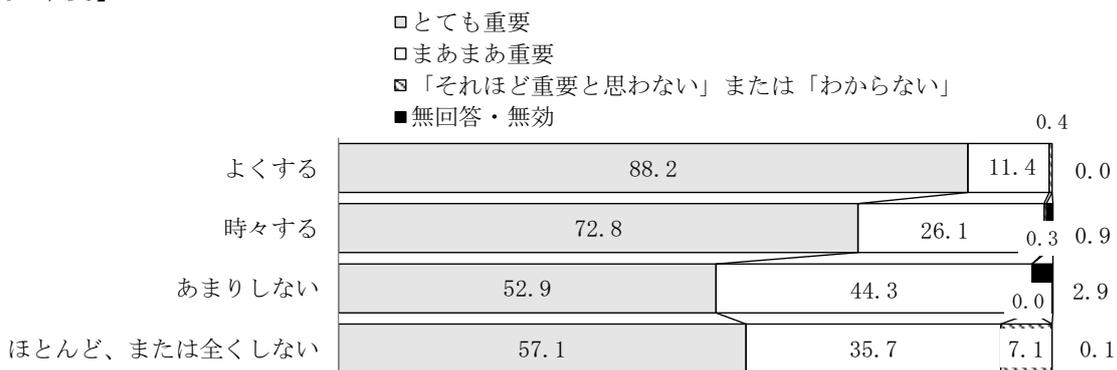
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】



【令和元年度】

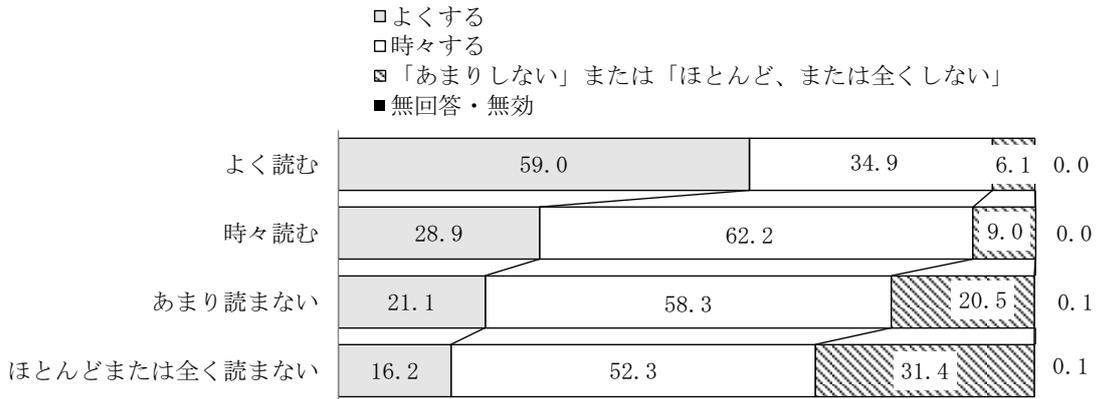


子どもへの読み聞かせを「よくする」「時々する」と答えた保護者ほど、子どもの成長において読書はとても重要だと思うかに対して「とても重要」「まあまあ重要」と答えた割合が高いことが分かる。反対に子どもへの読み聞かせを「あまりしない」、「ほとんど、または全くしない」と答えた保護者は子どもの成長において読書は「それほど重要と思わない」、「わからない」と答える割合が多い。

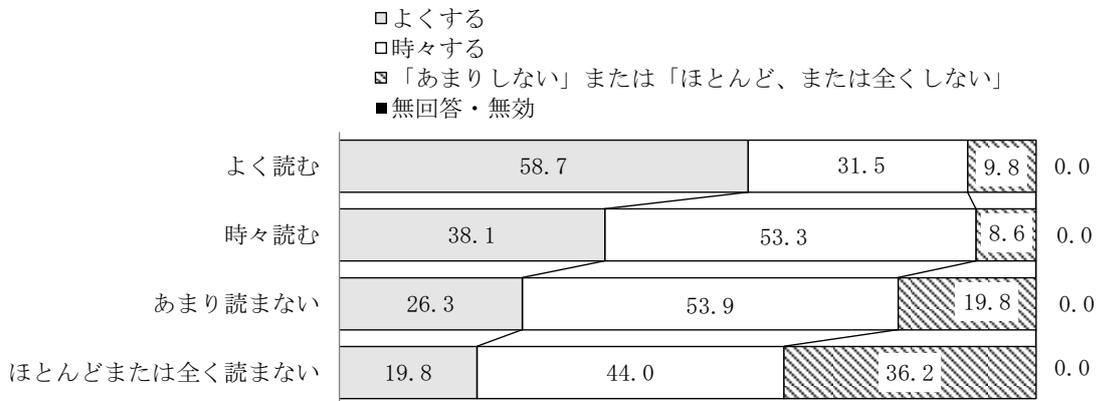
経年では、子どもへの読み聞かせを「あまりしない」、「ほとんど、または全くしない」と答えた保護者でも、子どもの成長において読書は「とても重要」、「まあまあ重要」と答える割合が増加している。

②「(保護者自身) 日頃から本を読むか」と「子どもへの読み聞かせの実施状況」の相関 (%)

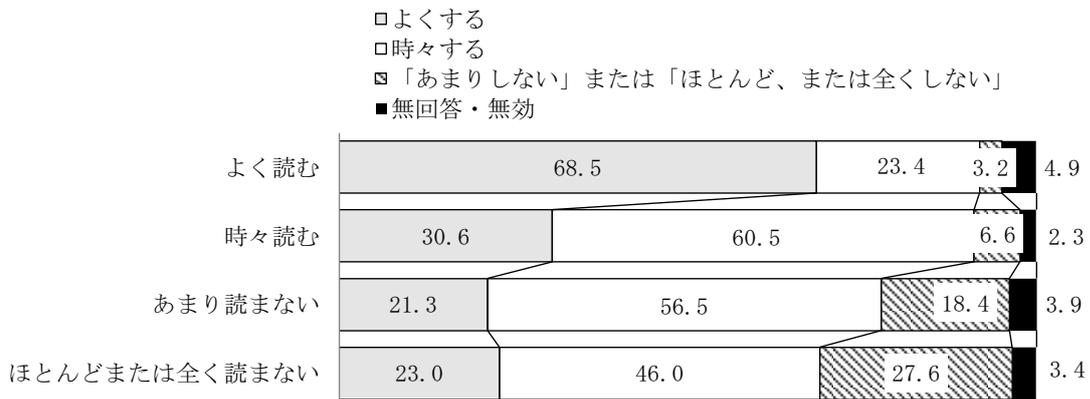
【平成 20 年度】



【平成 26 年度】



【令和元年度】

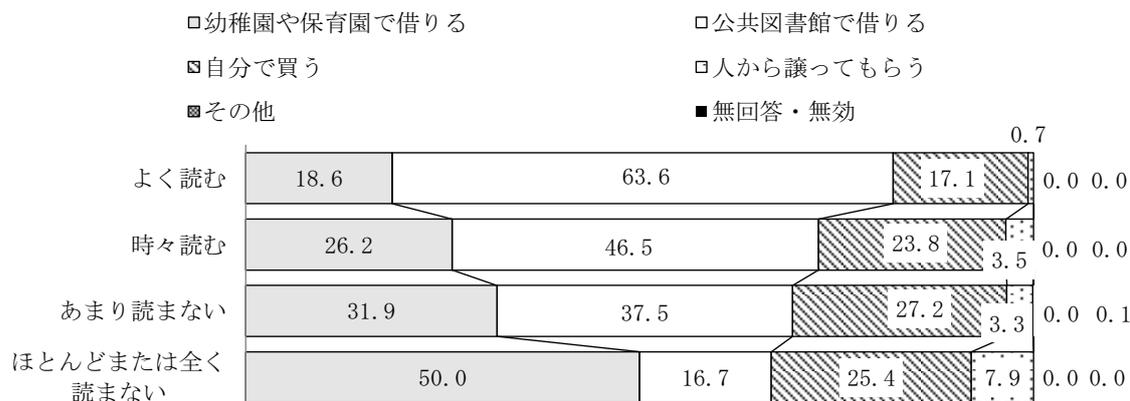


日頃から本を「よく読む」、「時々読む」と答えた保護者ほど、子どもへの読み聞かせを「よくする」「時々する」と答えた割合が高く、あわせると 80%を超える結果となった。

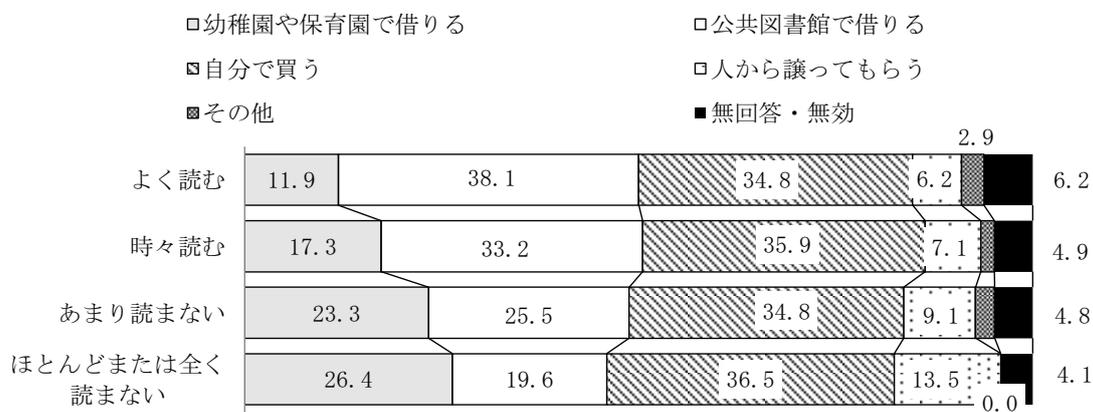
経年では、日頃から本を「ほとんどまたは全く読まない」と答えた保護者も、子どもへの読み聞かせを「あまりしない」または「ほとんど、または全くしない」と答えた割合が減少している。

③「(保護者自身) 日頃から本を読むか」と「子どもの本をどのように用意するか」の相関 (%)

【平成 26 年度】



【令和元年度】

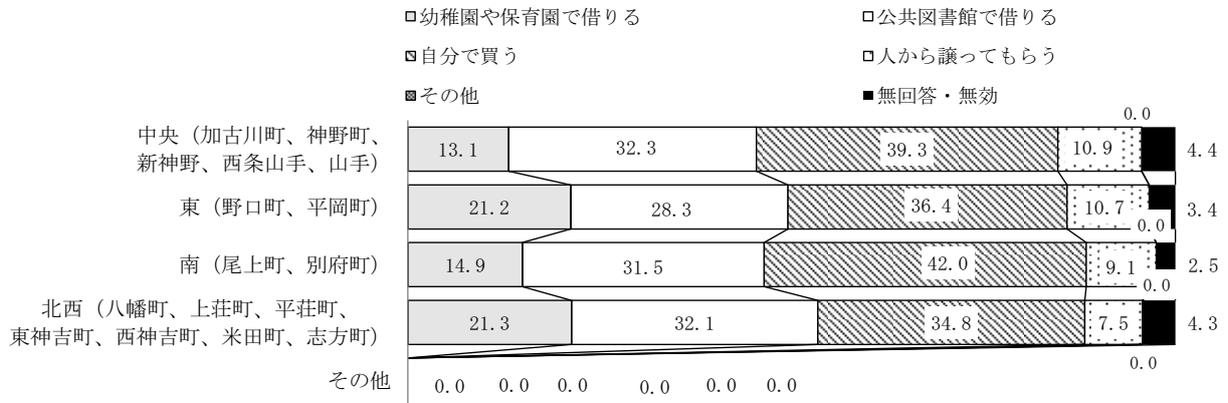


日頃から本を「よく読む」保護者は子どもの本を「公共図書館で借りる」割合が 38.1%と最も高く次いで「自分で買う」が 34.8%となった。日頃から保護者が本を読む頻度が減るほど子どもの本を「幼稚園や保育園で借りる」と答えた割合が増加する傾向が見える。

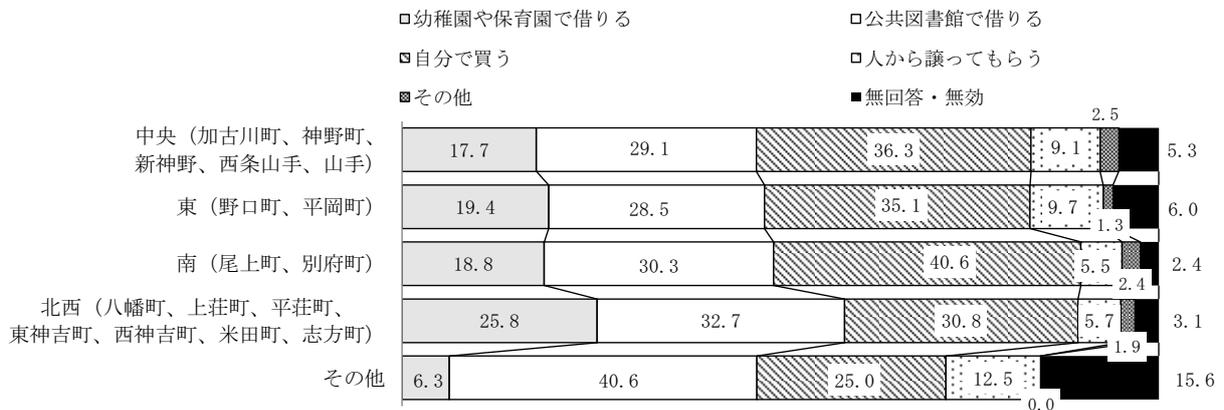
経年で見ると、保護者自身の読書の頻度にかかわらず、全体的に「自分で買う」割合が増加している。

④「子どもの本をどのように用意するか（就学前の子どもをもつ保護者）」と居住別地域の比較（％）

【平成 26 年度】



【令和元年度】



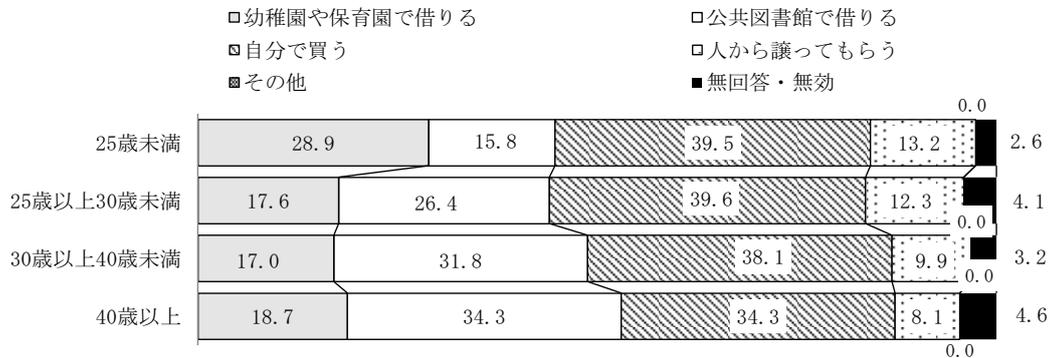
中央エリアおよび南部エリアに居住している保護者は子どもの本を「自分で買う」割合が高くなっており、これは平成 26 年度と同じ傾向である。

「その他」を除き、西部および北部エリアでは「公共図書館で借りる」の割合が 32.7%と最も高く、東部エリアにおいては「人から譲ってもらう」の割合が 9.7%と他のエリアに比べて高い結果となった。

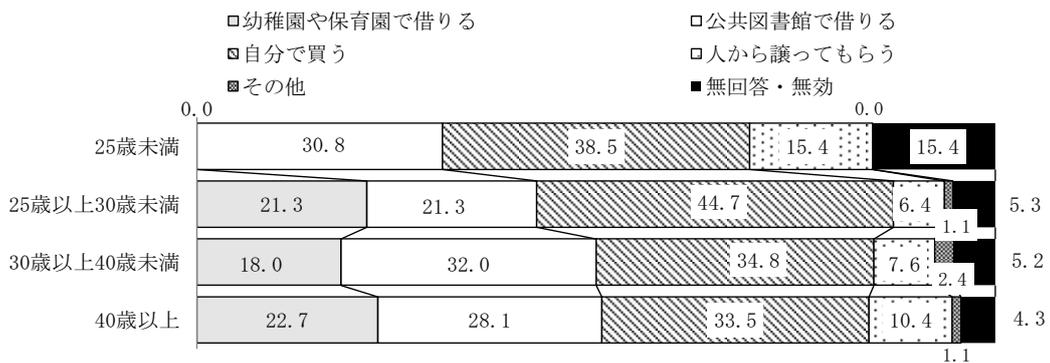
経年では、「幼稚園や保育園で借りる」の割合が、増加しているエリアが多い。

⑤「子どもの本をどのように用意するか（就学前の子どもをもつ保護者）」と保護者の年齢別比較（％）

【平成 26 年度】



【令和元年度】

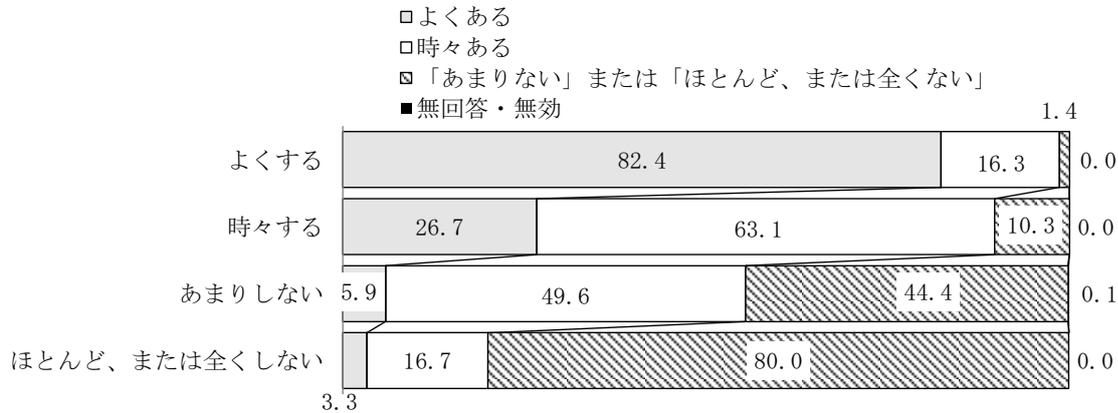


保護者の年代に関係なく子どもの本は「自分で買う」の割合が最も高いという結果になった。25歳未満においては、「幼稚園や保育園で借りる」と回答した人がおらず、「人から譲ってもらう」の割合が他の年代より比較的高い。

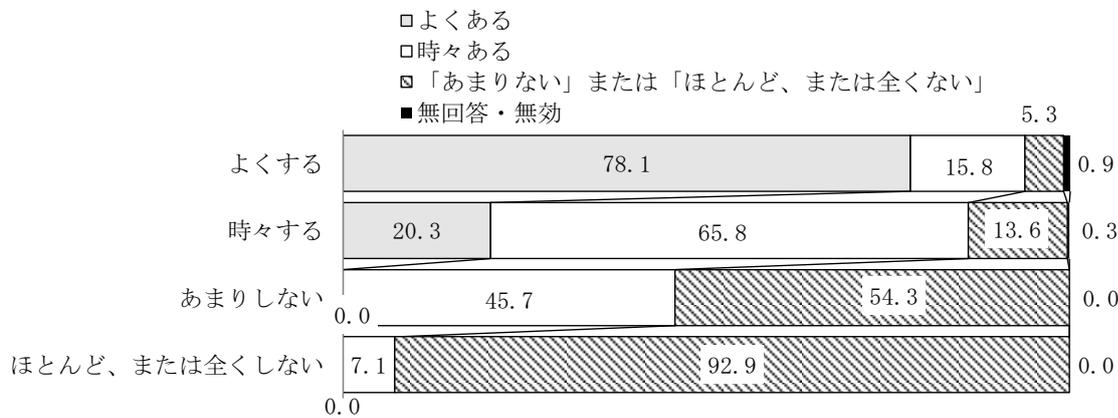
経年では、令和元年度の25歳未満は「公共図書館で借りる」と回答した割合が増えている。

⑥「子どもへの読み聞かせの実施状況」と「子どもから本を読んでもほしいとせがまれることがあるか」の相関（％）

【平成 26 年度】



【令和元年度】



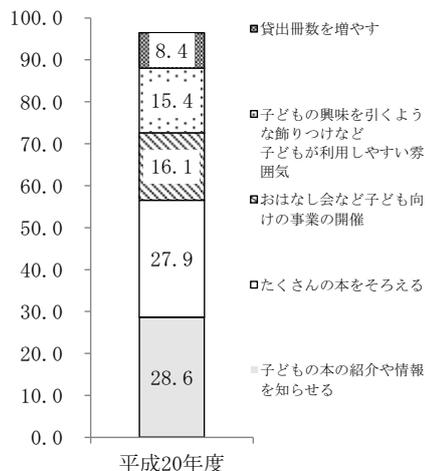
日頃からよく子どもへ本の読み聞かせをする保護者ほど、子どもから本を読んでもほしいとせがまれる割合が高い。

経年では、子どもへ本の読み聞かせを「あまりしない」、「ほとんど、または全くしない」と答えた保護者については、子どもから本を読んでもほしいとせがまれる割合が、10%以上減少している。

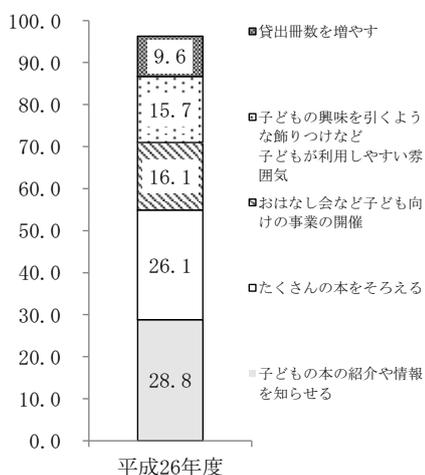
(4) 公共図書館に望むこと

公共図書館に望むこと（上位から）（％）

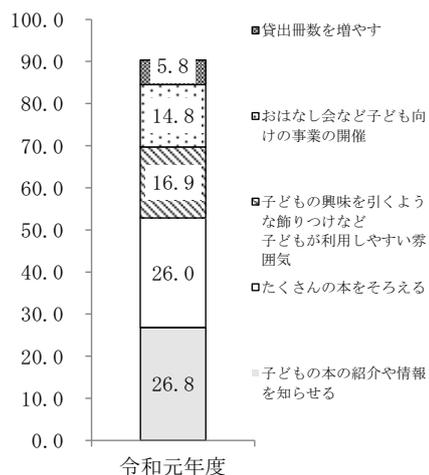
	平成20年度
子どもの本の紹介や情報を知らせる	28.6
たくさんの本をそろえる	27.9
おはなし会など子ども向けの事業の開催	16.1
子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気	15.4
貸出冊数を増やす	8.4



	平成26年度
子どもの本の紹介や情報を知らせる	28.8
たくさんの本をそろえる	26.1
おはなし会など子ども向けの事業の開催	16.1
子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気	15.7
貸出冊数を増やす	9.6



	令和元年度
子どもの本の紹介や情報を知らせる	26.8
たくさんの本をそろえる	26.0
子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気	16.9
おはなし会など子ども向けの事業の開催	14.8
貸出冊数を増やす	5.8



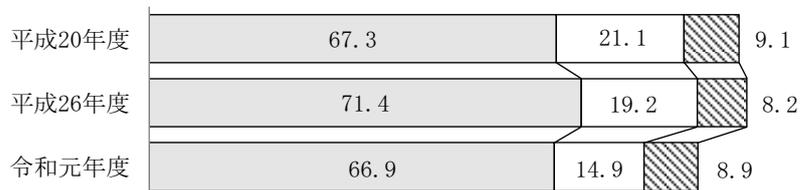
保護者に子どもの読書活動の推進を図るうえで公共図書館に望むことを聞いたところ、「子どもの本の紹介や情報を知らせる」が26.8%と最も高く、次いで「たくさんの本をそろえる」が26.0%、「子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気」が16.9%だった。

経年で見ると上位2項目は変わらないが、令和元年度では子どもの立場に立った図書館の雰囲気づくりという項目の割合が増加し、子ども向けの事業の開催が減少している。また、平成30年2月より、貸出冊数を増やしたため、「貸出冊数を増やす」の割合は減少した。

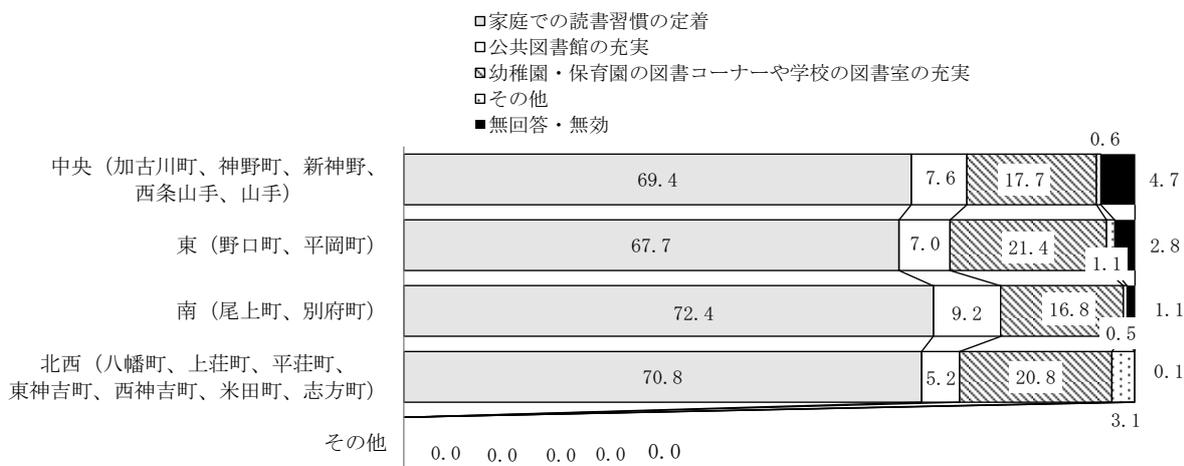
(5) 子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要なこと

子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要だと思うこと（上位から）（％）

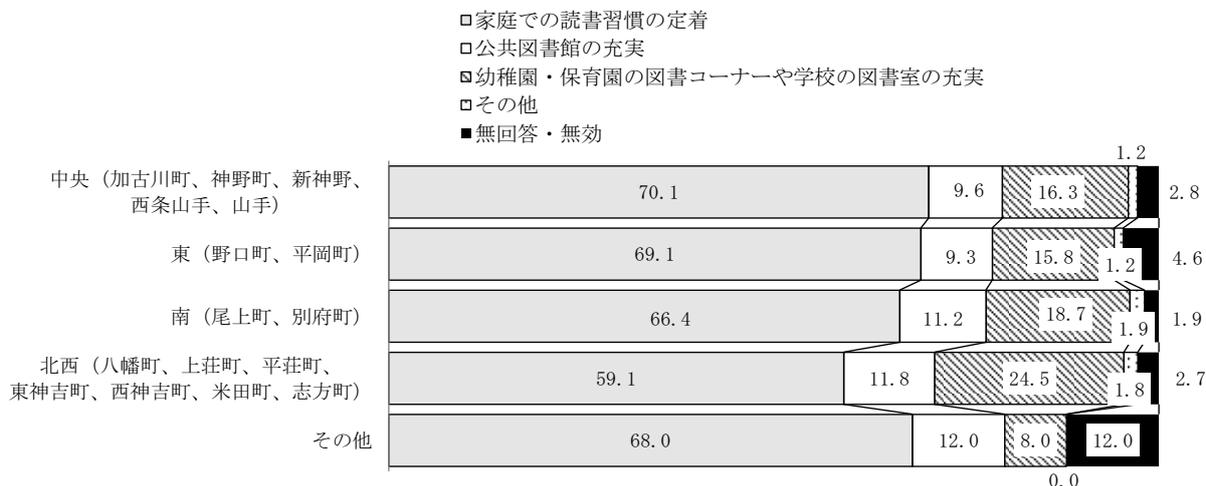
□家庭での読書習慣の定着 □幼稚園・保育園の図書コーナーや学校の図書室の充実 □公共図書館の充実



【平成26年度】



【令和元年度】

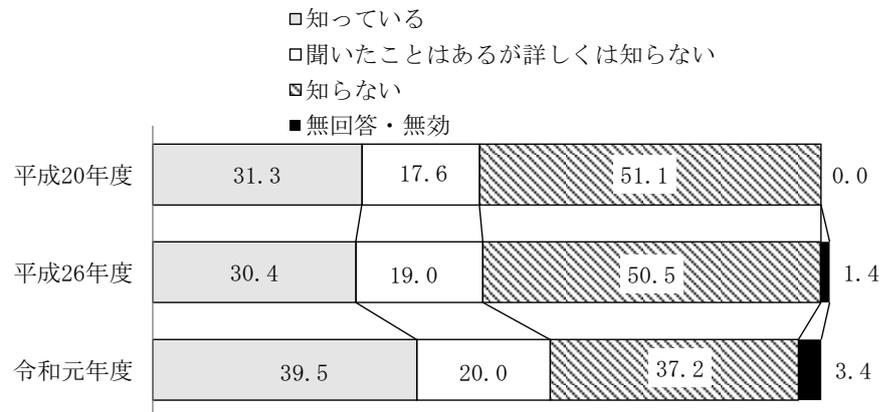


子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要だと思うことを聞いたところ、「家庭での読書習慣の定着」が66.9%と最も高く、次いで「幼稚園・保育園の図書コーナーや学校の図書室の充実」が14.9%、「公共図書館の充実」が8.9%となった。経年では、令和元年度は「公共図書館の充実」の割合が全体的に増加している。

エリア別に見ても、3項目の順位はどこも同じであることが分かる。経年で見ると、特別に大きな変化はないが、南部エリアと西部および北部エリアの子どもの読書活動の推進を図るうえで最も重要だと思うことで「家庭での読書習慣の定着」と答えた割合が5ポイント以上減少している。

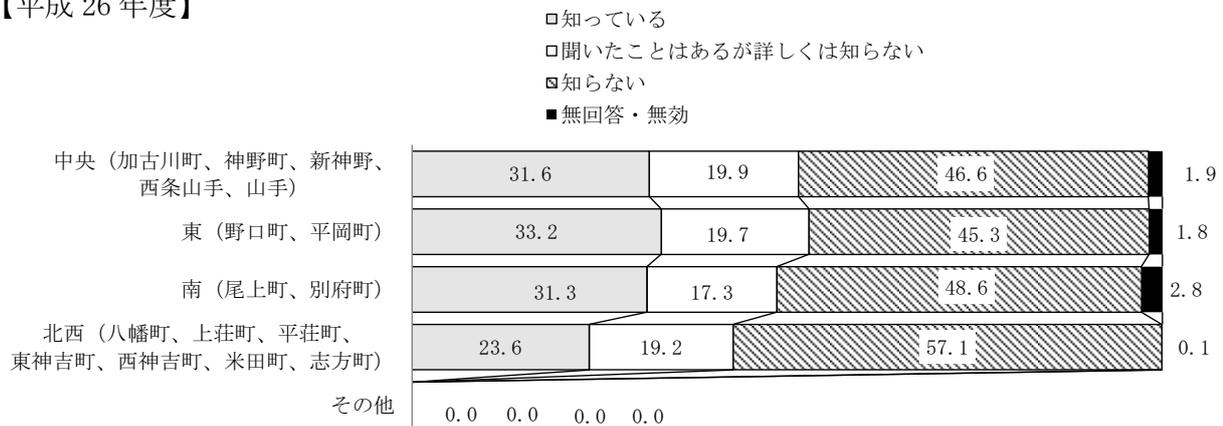
(6) ブックスタート事業の認知状況

ブックスタート事業について (%)

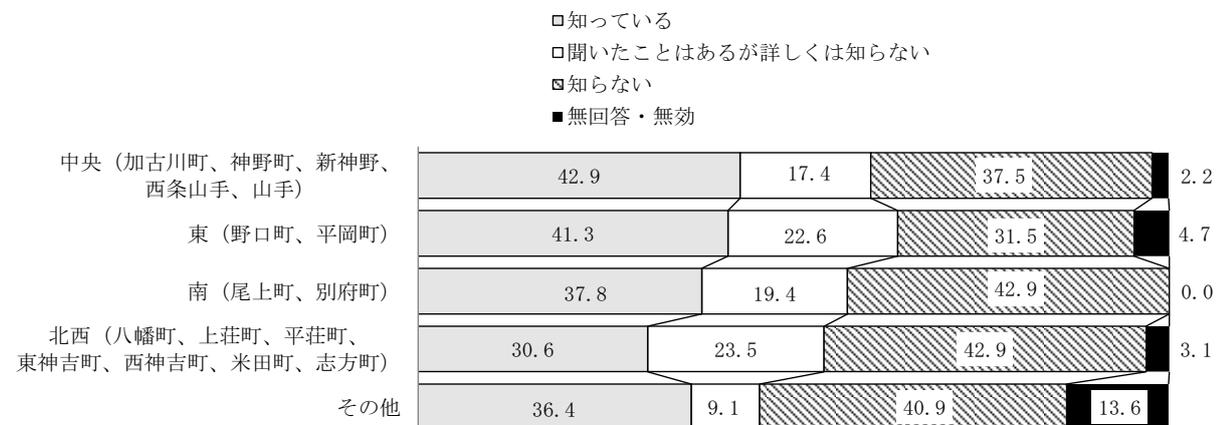


* 居住エリア

【平成 26 年度】

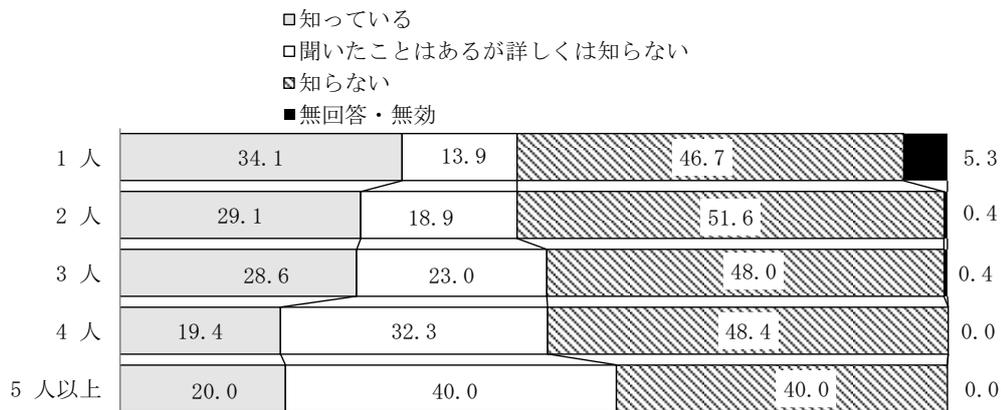


【令和元年度】

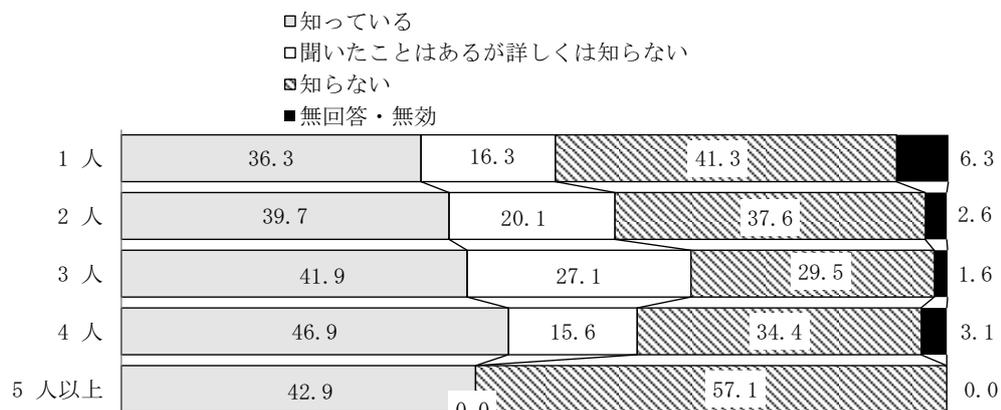


*子どもの人数

【平成 26 年度】



【令和元年度】



加古川市が実施しているブックスタート事業に対する認知の状況については、「知っている」が 39.5%と最も高く、次いで「知らない」が 37.2%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が 20.0%となった。経年で見ると、「知っている」の割合が平成 20 年度、平成 26 年度と比較して大幅に増加している。

エリア別に見ると、令和元年度では中央エリアと東部エリアで「知っている」の割合が最も高くなっているが、まだ全体的に「知らない」の割合も高い。

子どもの人数別に見ると、平成 26 年度では子どもの人数が多くなるにつれて「知っている」の割合が減少していたが、令和元年度では子どもの人数が多くなるにつれて「知っている」の割合が増加している。

III 資料

Ⅲ 資料

子どもの読書活動についての聞き取り調査（小学1年生・2年生）

学 校 名	小学校
学 年	年 生
クラスの児童数	人
当日の出席児童数	人

【調査項目】

*読書意欲の調査

1	本を読むのが好きですか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
2	学校の図書室に行くのが好きですか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
3	絵本やおはなし（物語）が好きですか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人

*家庭での読書環境・実態の調査

4	学校以外で本を読みますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
5	おうちの人に、よく本を読んでもらいますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
6	おうちの人も、よく本を読んでいますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
7	学校以外の図書館で本を借りたことがありますか。	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人
8	本を読みたいときに、いつでも本が近くにありますか。（学校でも家でも）	は い	人
		いいえ	人
		わからない	人

～～調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。～～

子どもの読書活動についてのアンケート(小学3年生・4年生)

No. 1

下の1から15のしつ問について、あてはまる番号1つに○をつけてください

「その他」を選んだときは、()にその内ようを書いてください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習さんこう書、マンガ、ざっしやふろく以外のものです。

問1 あなたは何年生ですか？

1. 小学3年生 2. 小学4年生

問2 あなたは読書が好きですか？

1. 好き 2. どちらかというが好き 3. どちらかというときらい 4. きらい

問3 あなたはどんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)

1. 物語(童話、昔話、小説など) 2. 伝記や歴史の本 3. 植物や動物の本
4. 科学や宇宙の本 5. 料理や手芸の本 6. スポーツや音楽の本
7. その他() 8. 読まない

問4 あなたは1か月に何さつくらい本を読みますか？(朝読や図書の時間も入れます)

1. 10さつ以上 2. 5～9さつ 3. 1～4さつ 4. 0さつ

問5 あなたは1週間のうち何日くらい本を読みますか？(朝読・図書の時間は入れません)

1. 1週間ほとんど毎日 2. 学校のある日はほとんど毎日 3. 学校のある日は2～3日
4. 休日はほとんど毎日 5. ほとんど読まない

問6 【5のしつもんで、1～4を選んだ人にお聞きします。】なぜ本を読みますか？

1. 読むのが楽しいから 2. いろんなことがわかるから 3. 先生や家の人に言われるから
4. その他()

問7 【5のしつもんで、5を選んだ人にお聞きします。】本を読まない一番の理由は何ですか？

1. 読書がきらい 2. スポーツをしたりする方が楽しい 3. テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい
4. 読みたいが勉強や習い事で読む時間がない 5. 読みたいが本の用意ができない
6. 読みたいと思う本がない 7. 何を読んでいいか、わからない
8. その他()

問8 あなたは1週間何回くらい学校の図書室に行きますか？(じゅぎょうで行く場合も入れます。)

1. 5回以上 2. 3～4回 3. 1～2回 4. 0回

問9 学校の図書室にしてほしいことはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. いつでも使えるようにする
3. 借りられる本の数をふやす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本の相談ができる先生がいつもいる
6. 本をさがしやすくする
7. 本のしょうかいやお知らせをする
8. 図書の時間を時間わりで決めて、図書室に行って本を読めるようにする
9. その他()

問10 あなたは学校以外の図書館に行きますか？

1. よく行く
2. 時々行く
3. あまり行かない
4. 行かない

問11 学校以外の図書館に、してほしいことはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. 調べ事の手助けをしてくれる
3. 借りられる本の数をふやす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本をさがしやすくする
6. 本のしょうかいやお知らせをする
7. おはなし会などの行事をする
8. その他()

問12 家の人は、ふだんから本を読んでいますか？

1. よく読んでいる
2. 時々読んでいる
3. あまり読んでいない
4. わからない

問13 あなたが小さいころに、家の人に本をよく読んでもらいましたか？

1. よく読んでもらった
2. たまに読んでもらった
3. 読んでもらったことはない
4. おぼえていない

問14 家の人に、本をよく読むように言われることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問15 家に自分の本がありますか？

1. 10さつよりもたくさんある
2. 10さつよりは少ないけれどある
3. ない

～～ しつもんはこれでおわりです。ご協力ありがとうございました。～～

子どもの読書活動についてのアンケート(小学5年生・6年生)

No. 1

下の1から18の質問について、あてはまる番号1つに○をつけてください

「その他」を選んだときは、()にその内容を書いてください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付らくは除きます。

問1 あなたは何年生ですか？

1. 小学5年生 2. 小学6年生

問2 あなたは読書が好きですか？

1. 好き 2. どちらかというとき好き 3. どちらかというとき嫌い 4. 嫌い

問3 あなたはどんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)

1. 物語(童話、昔話、小説など) 2. 伝記や歴史の本 3. 植物や動物の本 4. 科学や宇宙の本
5. 料理や手芸の本 6. スポーツや音楽の本 7. その他() 8. 読まない

問4 あなたは1ヶ月に何冊くらい本を読みますか？(朝読・図書の時間をふくみます)

1. 10冊以上 2. 5~9冊 3. 1~4冊 4. 0冊

問5 あなたの1日あたりの読書時間はどれくらいですか？(朝読・図書の時間はふくみません)

1. 10分以内 2. 20分以内 3. 30分以内 4. 1時間以内 5. 1時間以上 6. 読まない

問6 あなたは1週間のうち何日くらい本を読みますか？(朝読・図書の時間はふくみません)

1. 1週間のほとんど毎日 2. 学校のある日はほとんど毎日 3. 学校のある日は2~3日
4. 休日はほとんど毎日 5. ほとんど読まない

問7 【問6で、1~4を選んだ人にお聞きします。】なぜ本を読みますか？

1. いろいろ想像するのが楽しいから 2. 自分の考えが広がったり深まったりするから
3. 新しい知識を得ることができるから 4. 先生や家の人に言われるから
5. その他()

問8 【問6で、5を選んだ人にお聞きします。】本を読まない一番の理由は何ですか？

1. 読書が嫌い 2. スポーツをしたりする方が楽しい 3. テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい
4. 読みたいが勉強や習い事があって読む時間がない 5. 読みたいが本の用意ができない
6. 読みたいと思う本がない 7. 何を読んでいいかわからない
8. その他()

問9 あなたは1週間に何回くらい学校の図書室を利用しますか？(授業で行く場合をふくみます。)

1. 5回以上 2. 3~4回 3. 1~2回 4. 0回

問 10 学校の図書室に、期待することはどんなことですか？（2つまで選べます。）

1. もっといろいろな本をそろえる
2. いつでも利用できるようにする
3. 借りられる本の数をふやす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本の相談ができる先生がいつもいる
6. 本をさがしやすくする
7. 本のしょうかいやお知らせをする
8. 図書の時間を時間割で決めて、図書室に行って本を読めるようにする
9. その他（ ）

問 11 あなたは学校以外の図書館を利用することがありますか？

1. よく利用する
2. 時々利用する
3. あまり利用しない
4. 利用しない

問 12 【学校以外の図書館を利用しない人にお聞きします。】利用しない理由は何ですか？

1. 図書館が家の近くにない
2. いそがしくて図書館に行く時間がない
3. 図書館に読みたい本がない
4. 学校の図書室の方が利用しやすい
5. 読みたい本は買って読む
6. その他（ ）

問 13 学校以外の図書館に、期待することはどんなことですか？（2つまで選べます。）

1. もっといろいろな本をそろえる
2. 雑誌をたくさんそろえる
3. 調べ学習の手助けがしてもらえる
4. 借りられる本の数をふやす
5. 本を借りられる期間を長くする
6. 本をさがしやすくする
7. 本のしょうかいやお知らせをする
8. おはなし会などの行事をする
9. その他（ ）

問 14 家の人、ふだんから本を読んでいますか？

1. よく読んでいる
2. 時々読んでいる
3. あまり読んでいない
4. わからない

問 15 あなたが小さいころに、家の人に本をよく読んでもらいましたか？

1. よく読んでもらった
2. たまに読んでもらった
3. 読んでもらったことはない
4. 覚えていない

問 16 家の人と本のことについて話しをすることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問 17 家の人に本をよく読むように言われることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問 18 家に自分の本がありますか？

1. ある（10冊以上）
2. ある（10冊未満）
3. ない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

子どもの読書活動についてのアンケート(中学生)

No. 1

下の(ア)から(ツ)の質問について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

「その他」を選んだ場合は、()にその内容を書いてください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(ア) あなたは何年生ですか？

1. 中学1年生 2. 中学2年生 3. 中学3年生

(イ) あなたは読書が好きですか？

1. 好き 2. どちらかという好き 3. どちらかという嫌い 4. 嫌い

(ウ) あなたはどんな本を読んでいますか？(2つまで選べます。)

1. 物語(小説、ラトルなど) 2. 歴史、伝記の本 3. 植物や動物の本 4. 科学や宇宙の本
5. 料理や手芸の本 6. スポーツや音楽の本 7. 哲学、心理学の本
8. その他() 9. 読まない

(エ) あなたは1ヶ月に何冊くらい本を読みますか？(朝読を含む)

1. 10冊以上 2. 5~9冊 3. 1~4冊 4. 0冊

(オ) あなたの1日あたりの読書時間はどれくらいですか？(朝読は含まない)

1. 10分以内 2. 20分以内 3. 30分以内 4. 1時間以内 5. 1時間以上 6. 読まない

(カ) あなたは1週間のうち何日くらい本を読みますか？(朝読は含まない)

1. 毎日 2. 週に5~6日 3. 週に3~4日 4. 週に1~2日 5. ほとんど読まない

(キ) 【問力で、1~4を選んだ人にお聞きします。】なぜ本を読みますか？

1. いろいろ想像するのが楽しいから 2. 自分の考えが広がったり深まったりするから
3. 新しい知識を得ることができるから 4. 先生や家の人に言われるから
5. その他()

(ク) 【問力で5を選んだ人にお聞きします。】本を読まない一番の理由は何ですか？

1. 読書が嫌い 2. スポーツをしたりする方が楽しい 3. テレビやゲームで遊ぶ方が楽しい
4. 読みたいが勉強のため読む時間がない 5. 読みたいが部活動のため読む時間がない
6. 読みたいが、本の用意ができない 7. 読みたいと思う本がない 8. 何を読んでいいかわからない
9. その他()

(ケ) あなたは1週間に何回くらい学校の図書室を利用しますか？

1. 5回以上 2. 3~4回 3. 1~2回 4. 0回

(コ) 学校の図書室に、期待することはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. いつでも利用できるようにする
3. 借りられる本の数を増やす
4. 本を借りられる期間を長くする
5. 本の相談ができる先生がいつもいる
6. 本をさがしやすくする
7. 本の紹介や情報を知らせる
8. その他 ()

(サ) あなたは学校以外の図書館を利用することがありますか？

1. よく利用する
2. 時々利用する
3. あまり利用しない
4. ほとんど、または全く利用しない

(シ) 【学校以外の図書館を利用しない人にお聞きします。】利用しない理由は何ですか？

1. 図書館が家の近くにない
2. いそがしくて図書館に行く時間がない
3. 図書館に読みたい本がない
4. 学校の図書室の方が利用しやすい
5. 読みたい本は買って読む
6. その他 ()

(ス) 学校以外の図書館に、期待することはどんなことですか？(2つまで選べます。)

1. もっといろいろな本をそろえる
2. 雑誌をたくさんそろえる
3. 調べ学習の手助けがしてもらえる
4. 借りられる本の数を増やす
5. 本を借りられる期間を長くする
6. 本をさがしやすくする
7. 本の紹介や情報を知らせる
8. 中学生を対象にした行事をする
9. その他 ()

(セ) 家の人は、ふだんから本を読んでいますか？

1. よく読んでいる
2. 時々読んでいる
3. あまり読んでいない
4. わからない

(ソ) あなたが小さいころに、家の人に本をよく読んでもらいましたか？

1. よく読んでもらった
2. たまに読んでもらった
3. 読んでもらったことはない
4. 覚えていない

(タ) 家の人と本のことについて話しをすることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ほとんど、または全くない

(チ) 家の人に本をよく読むように言われることがありますか？

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ほとんど、または全くない

(ツ) 家に自分の本を持っていますか？

1. ある (50冊以上)
2. ある (10~49冊)
3. ある (10冊未満)
4. ない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

子どもの読書活動実態調査アンケート

(保護者用—養護学校) No. 1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の児童・生徒の読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号1つに○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を()内に記入してください。

問8については、枠内にご自由にご記入ください

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【提出期限】 7月16日(火)までに担任の先生にお渡しください。

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他

* お子さまの学年

1. 幼稚部 2. 小学部(1~3年) 3. 小学部(4~6年) 4. 中学部

問1 子どもの成長において読書は重要だと考えますか？

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか？

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか？

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(5歳児保護者用—幼稚園・保育園・認定こども園) No.1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の子どもの読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますようお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号1つに○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を（ ）内に記入してください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【提出期限】 7月16日(火)までに、担任の先生にお渡しください。

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他

* お子さまは何人いらっしゃいますか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

問1 子どもの読解力、想像力、表現力を育て、感性を磨くうえで読書は重要だと考えますか？

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか？

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか？

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(5歳児保護者用—幼稚園・保育園・認定こども園) No. 2

問4 ご家庭に子どもの本がありますか？

1. たくさんある 2. いくらかはある 3. ない

問5 お子さまの読書のための本は、どのようにして用意されることが多いですか？(2つ以内)

1. 幼稚園や保育園で借りる 2. 公共図書館で借りる 3. 自分で買う 4. 人から譲ってもらう
5. その他 ()

問6 お子さまに、よく絵本の読み聞かせをしますか？

1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. ほとんど、または全くしない

問7 お子さまに本を読んでほしいとせがまれることがありますか？

1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない

問8 お子さまの読書活動のために公共図書館に望むことはどんなことですか？(2つ以内)

1. たくさん本をそろえる 2. 貸出冊数を増やす 3. 子どもの本の紹介や情報を知らせる
4. おはなし会や読み聞かせなどの開催
5. 子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気づくり
6. その他 ()

問9 子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要だと思うものはどれですか？

1. 家庭での読書習慣の定着 2. 公共図書館の充実
3. 幼稚園・保育園の図書コーナーや学校図書室の充実
4. その他 ()

問10 加古川市が4ヶ月健診時に実施している、はじめまして絵本事業についてご存知ですか？
(はじめまして絵本事業：4ヶ月健診時に、赤ちゃんのための絵本リスト「はじめまして絵本」を配付し、保護者の方に読み聞かせの効用を説明・PRしています。)

1. 知っている 2. 聞いたことはあるが詳しくは知らない 3. 知らない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

加古川市立中央図書館

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用—子育てプラザ・児童館) No. 1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の子どもの読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号1つに○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を()内に記入してください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【回収期限と提出先】 7月16日(火)までに、下記のいずれかの施設の窓口へお持ちください。

・加古川駅南子育てプラザ ・東加古川子育てプラザ ・志方児童館

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他

* お子さまは何人いらっしゃいますか？

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

問1 子どもの読解力、想像力、表現力を育て、感性を磨くうえで読書は重要だと考えますか？

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか？

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか？

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用ー子育てプラザ・児童館) No. 2

- 問4 ご家庭に子どもの本がありますか？
1. たくさんある 2. いくらかはある 3. ない
- 問5 お子さまの読書のための本は、どのようにして用意されることが多いですか？（2つ以内）
1. 幼稚園や保育園で借りる 2. 公共図書館で借りる 3. 自分で買う 4. 人から譲ってもらう
5. その他（ ）
- 問6 お子さまに、よく絵本の読み聞かせをしますか？
1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. ほとんど、または全くしない
- 問7 お子さまに本を読んでほしいとせがまれることがありますか？
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない
- 問8 お子さまの読書活動のために公共図書館に望むことはどんなことですか？（2つ以内）
1. たくさん本をそろえる 2. 貸出冊数を増やす 3. 子どもの本の紹介や情報を知らせる
4. おはなし会や読み聞かせなどの開催
5. 子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気づくり
6. その他（ ）
- 問9 子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要だと思うものはどれですか？
1. 家庭での読書習慣の定着 2. 公共図書館の充実
3. 幼稚園・保育園の図書コーナーや学校図書室の充実
4. その他（ ）
- 問10 加古川市が4ヶ月健診時に実施している、はじめまして絵本事業についてご存知ですか？
（はじめまして絵本事業：4ヶ月健診時に、赤ちゃんのための絵本リスト「はじめまして絵本」を配付し、保護者の方に読み聞かせの効用を説明・PRしています。）
1. 知っている 2. 聞いたことはあるが詳しくは知らない 3. 知らない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

加古川市立中央図書館

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用—図書館) No. 1

【趣旨】

このアンケート調査は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、加古川市における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するうえで、市内の子どもの読書活動の実態を把握するために行うものです。ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

【回答方法】

アンケートの質問に対して、該当する番号1つに○をつけてください。

また、「その他」を選んだ場合は、その内容を（ ）内に記入してください。

※なお、このアンケートで「本」というのは、教科書、学習参考書、マンガ、雑誌や付録は除きます。

(電子書籍は、本に含みます。)

【回収期限と提出先】 7月16日(火)までに、下記のいずれかの図書館の窓口へお持ちください。

- ・加古川市立中央図書館
- ・加古川市立加古川図書館
- ・加古川ウェルネスパーク図書館
- ・加古川海洋文化センター図書室

【問合せ先】 このアンケート調査について、わからないところがありましたら、加古川市立中央図書館(電話：079-425-5200)までご連絡ください。

* あなたの年齢

1. 25歳未満 2. 25歳以上30歳未満 3. 30歳以上40歳未満 4. 40歳以上

* 住んでいる地区(町)

1. 加古川町 2. 神野町・新神野・西条山手・山手 3. 野口町 4. 平岡町 5. 尾上町 6. 別府町
7. 八幡町 8. 平荘町 9. 上荘町 10. 東神吉町 11. 西神吉町 12. 米田町 13. 志方町
14. その他

* お子さまは何人いらっしゃいますか?

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上

問1 子どもの読解力、想像力、表現力を育て、感性を磨くうえで読書は重要だと考えますか?

1. とても重要だと思う 2. まあまあ重要だと思う 3.それほど重要とは思わない 4. わからない

問2 あなたのお子さんは、どのような本に興味がありますか?

1. 絵本 2. 物語(童話、昔話など) 3. 動物や乗り物などの図鑑 4. わからない

問3 あなたは日ごろから本を読みますか?

1. よく読む 2. 時々読む 3. あまり読まない 4. ほとんどまたは全く読まない

子どもの読書活動実態調査アンケート

(就学前の子どもを持つ保護者用—図書館) No. 2

問4 ご家庭に子どもの本がありますか？

1. たくさんある 2. いくらかはある 3. ない

問5 お子さまの読書のための本は、どのようにして用意されることが多いですか？(2つ以内)

1. 幼稚園や保育園で借りる 2. 公共図書館で借りる 3. 自分で買う 4. 人から譲ってもらう
5. その他 ()

問6 お子さまに、よく絵本の読み聞かせをしますか？

1. よくする 2. 時々する 3. あまりしない 4. ほとんど、または全くしない

問7 お子さまに本を読んでほしいとせがまれることがありますか？

1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. ほとんど、または全くない

問8 お子さまの読書活動のために公共図書館に望むことはどんなことですか？(2つ以内)

1. たくさん本をそろえる 2. 貸出冊数を増やす 3. 子どもの本の紹介や情報を知らせる
4. おはなし会(ストーリーテリング(おはなし)や読み聞かせ)など子ども向けの事業の開催
5. 子どもの興味を引くような飾りつけなど子どもが利用しやすい雰囲気づくり
6. その他 ()

問9 子どもの読書活動の推進を図るうえで、最も重要だと思うものはどれですか？

1. 家庭での読書習慣の定着 2. 公共図書館の充実
3. 幼稚園・保育園の図書コーナーや学校の図書室の充実
4. その他 ()

問10 加古川市が4ヶ月健診時に実施している、はじめまして絵本事業についてご存知ですか？
(はじめまして絵本事業：4ヶ月健診時に、赤ちゃんのための絵本リスト「はじめまして絵本」を配付し、保護者の方に読み聞かせの効用を説明・PRしています。)

1. 知っている 2. 聞いたことはあるが詳しくは知らない 3. 知らない

～～ 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。 ～～

加古川市立中央図書館

令和元年度
子どもの読書活動実態調査アンケート
調査報告書

発行年：令和2年（2020年）2月
発行：加古川市教育委員会 教育指導部 中央図書館
〒675-0101 加古川市平岡町新在家 1224-7
電話（079）425-5200

【資料編 2】

高校生への読書活動実態調査アンケート
調査報告

高校生への読書活動実態調査アンケート 調査報告

調査概要

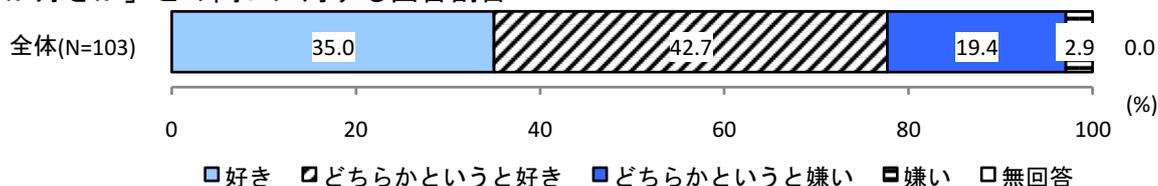
- ・対象：市内公共図書館に来館した高校生
- ・期間：令和元年7月～8月
- ・方法：配布、回収

回収状況

- ・配布人数：103
- ・回答数：103

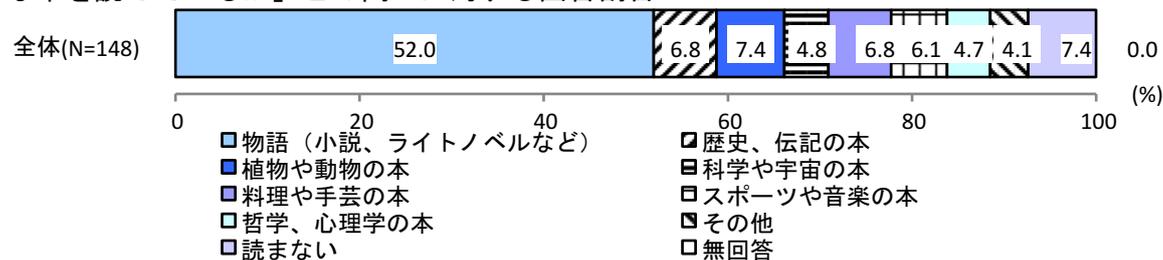
調査の結果

「読書が好きか」との問いに対する回答割合



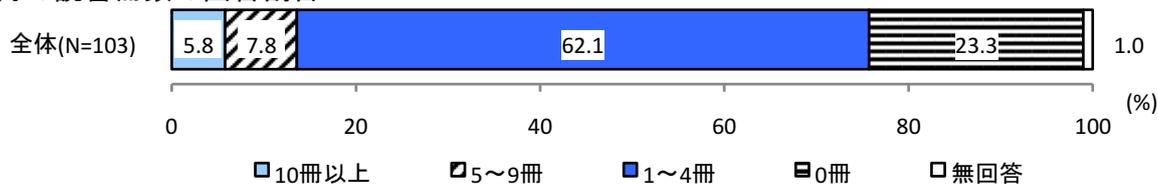
市内公共図書館を利用している生徒に回答を求めたため、「好き」、「どちらかという人喜欢い」の合計が77.7%と、中学生の回答より高い率になっている。

「どんな本を読んでいるか」との問いに対する回答割合



回答のうち5割以上が「物語（小説、ライトノベルなど）」を読んでいると回答している。

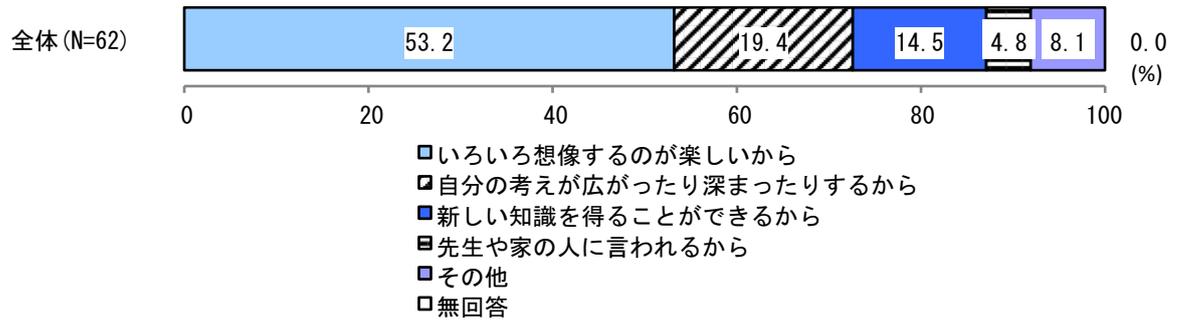
1ヶ月の読書冊数の回答割合



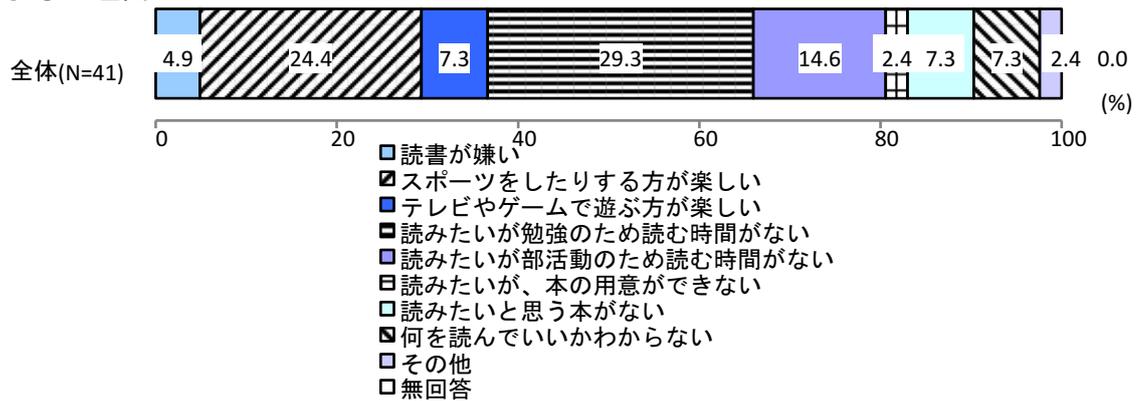
0冊が23.3%であるが、全国的な調査の高校生の不読率（55.3%）と比較すると、かなり低い割合である。

本を読む理由、読まない理由

読む理由



読まない理由

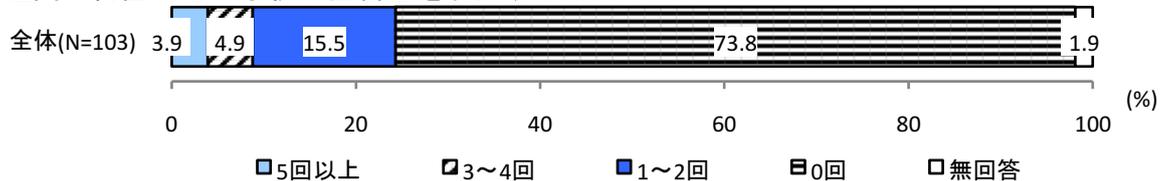


読む理由では「いろいろ想像するのが楽しい」が最も多く、半数を超えている。

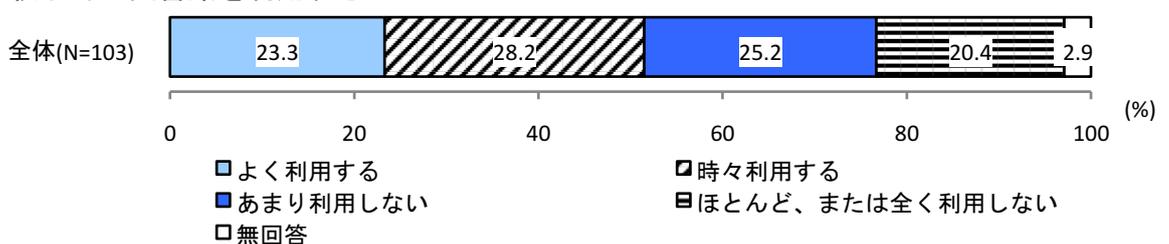
読まない理由では、「読む時間がない」、「スポーツの方が楽しい」が多い。

学校図書館や学校以外の図書館の利用状況

1週間に何回くらい学校の図書室を利用するか



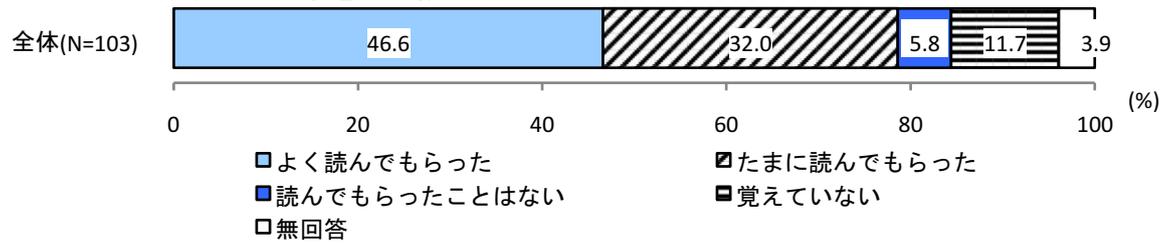
学校以外の図書館を利用するか



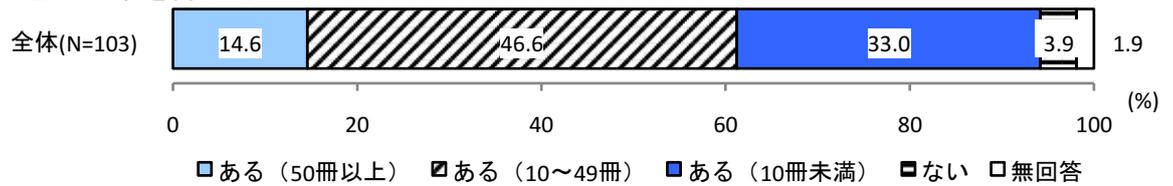
「1週間に何回くらい学校の図書室を利用するか」では、「0回」が7割を超えた。

家庭での読書環境

小さいころに、家の人に本をよく読んでもらったか

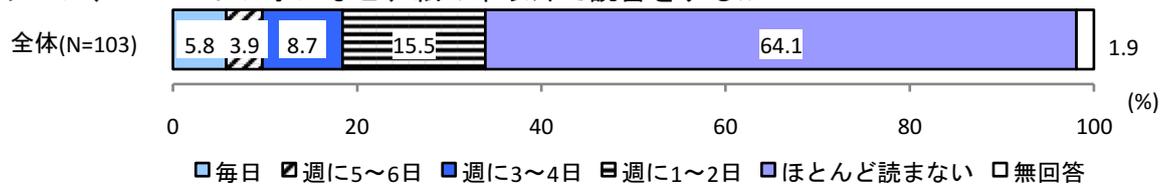


家に自分の本を持っているか



「小さいころに家の人に本をよく読んでもらったか」で、「よく」が45%以上で「たまたま」と合わせると8割近くになる。「家に自分の本があるか」については、「10冊未満」の生徒が3分の1程度いる。

パソコン、スマートフォンなど、紙の本以外で読書をするか



「紙の本以外で読書をするか」は、35%近くが、「紙の本以外で読書する」と回答している。

【資料編 3】

子どもの読書活動の推進に関する法律

子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成13年12月12日法律第154号)

(目的)

第1条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第2条 子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第3条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第4条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第5条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第6条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第7条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第8条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第9条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第10条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、4月23日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第11条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

【資料編 4】

加古川市子どもの読書活動推進計画
(第3次) 策定経過

加古川市子どもの読書活動推進計画（第3次）策定経過

(1) 加古川市子どもの読書活動推進計画策定委員 7名 (令和元年度)

団体等	所 属 ・ 役 職	氏 名
学識経験者	梅花女子大学講師	森 美由紀
子どもの読書活動関係者	図書館ボランティア	渡 瀬 道 子
子どもの読書活動関係者	図書館ボランティア	石 田 由美子
加古川市立中学校	山手中学校長 (図書教育担当校長)	米 光 恭 廣
加古川市立小学校	平岡北小学校長 (図書教育担当校長)	今 津 恵
加古川市立幼稚園	別府町幼稚園長 (園長会代表者)	岡 田 裕 之
加古川市立保育園	鳩里保育園長 (園長会代表者)	宮 川 美 香

(令和2年度)

団体等	所 属 ・ 役 職	氏 名
学識経験者	梅花女子大学講師	森 美由紀
子どもの読書活動関係者	図書館ボランティア	渡 瀬 道 子
子どもの読書活動関係者	図書館ボランティア	石 田 由美子
加古川市立中学校	山手中学校長 (図書教育担当校長)	長谷中 史 敏
加古川市立小学校	東神吉南小学校長 (図書教育担当校長)	今 津 恵
加古川市立幼稚園	平岡北幼稚園長 (園長会代表者)	田 中 政 邦
加古川市立保育園	鳩里保育園長 (園長会代表者)	宮 川 美 香

(2) 子どもの読書活動関係各課長 6名

(令和元年度)

所 属 ・ 役 職	氏 名
こども部こども政策課長	真 島 正 則
こども部幼児保育課長	宮 北 敏 勝
教育指導部社会教育・スポーツ振興課長	福 島 啓 晃
教育指導部学校教育課長	境 眞 稔
教育指導部中央図書館長	小 浦 慎 治
教育指導部加古川図書館長	田 中 耕 三 郎

(令和2年度)

所 属 ・ 役 職	氏 名
こども部こども政策課長	真 島 正 則
こども部幼児保育課長	乗 田 祐 治
教育指導部社会教育・スポーツ振興課長	福 島 啓 晃
教育指導部学校教育課長	松 尾 光 隆
教育指導部中央図書館長	中 塚 貴 博
教育指導部加古川図書館長	荒 木 宏 明

(3) 委員会開催状況

(令和元年度)

回	月 日	協議内容等
第1回	令和元年5月17日(金)	アンケート及び調査票の内容、手順等の決定
第2回	令和元年10月11日(金)	子どもの読書環境実態調査結果報告、課題検討
第3回	令和元年11月22日(金)	子どもの読書活動実態アンケート調査結果報告、課題検討
第4回	令和2年2月7日(金)	子どもの読書活動推進計画の素案の検討

(令和2年度)

回	月 日	協議内容等
第1回	令和2年6月5日(金)	計画趣旨、協議スケジュール及び素案の確認
第2回	令和2年8月4日(火)	素案に基づく計画案の検討
第3回	令和2年10月5日(月)	パブリックコメントに向けた計画案の確認
第4回	令和3年1月 日()	パブリックコメントに寄せられた意見に対する回答案及び修正事項の検討

(3) パブリックコメントの公募実施

令和2年11月4日から12月3日までの期間実施し、 件の意見がありました。

【資料編 5】

用語解説(五十音順)

用語解説（五十音順）：一般用語並びに県・市独自事業

朝の読書（運動）	学校で読書を習慣づける目的で毎朝10分間、児童・生徒、先生と一緒に自分の好きな本を読もう、という運動。昭和63年に千葉県の高校での「全校一斉の朝の読書」をきっかけに全国に広まった。
1日図書館員	地域の子どもを公共図書館に招いて、貸出作業や配架など図書館員の仕事を体験しながら、図書館の役割や仕事内容を知ってもらう催し。
家読（うちどく）	「家庭読書」「家族読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味する。家族で本を読んでコミュニケーションし、「家族の絆づくり」を目的とする。同じ時間、同じ空間を家族で共有し、読んだ本について感想を話し合う。
おはなし会	子どもたちを集めておはなしを聞かせる（ストーリーテリング）催しのこと。図書館の子どもに対するサービスの一つとして行われる。
学校運営協議会	学校（園）と家庭・地域が力を合わせて、学校（園）の運営に取り組むことができる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な取組。学校運営協議会の主な役割として、「学校園運営の基本方針を承認する」「学校園運営について、教育委員会または校長に意見を述べる」「学校園運営への必要な支援に関する協議を行う」がある。
学校園連携ユニット	「中学校区連携ユニット12」から、地域との連携を分離させ、校種間連携をさらに発展させた取組
学校司書	専ら学校図書館の職務に従事する職員「学校図書館法」（第6条）
学校図書館図書標準	公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書冊数の標準として、平成5年3月に文部省（現文部科学省）が設定した数値。学級数に応じて算出され、例えば、18学級の小学校では10,360冊、12学級の中学校では10,720冊とされる。
公共図書館	広く様々な分野にわたり、図書、記録その他必要な資料を収集し、公開して、誰でも利用できる図書館。
こどもの読書週間	こどもの日（5月5日）を含む3週間、4月23日から5月12日まで。子どもたちにもっと本を、子どもたちにもっと本を読む場所をとの願いから、昭和34年にはじまった。図書館・書店・学校を中心に、子どもの読書に関するさまざまな展示やイベントが行われる。
子育てプラザ	安心してゆとりのある楽しい子育てができるよう、乳幼児を子育て中の親が子ども連れて気軽に利用・交流できる場を提供し、育児相談や子育てサークルの育成・指導、各種講座の開催等を行う子育て支援の拠点施設。
図書館教育	図書館の利用方法や読書についての指導をすること。
司書	図書館に置かれる専門的職員。「図書館法（昭和25年4月施行）」
司書教諭	教員免許状を持ち、学校図書館の専門的職務を掌る教諭「学校図書館法」（第5条）
調べ学習	自ら学び、自ら考える、自主的、自発的な学習。
ストーリーテリング	語り手があらかじめ物語を覚えて聞き手に語りかけること。「おはなし」「素ばなし」ともいう。
中学校区連携ユニット12	中学校区を一つの単位（ユニット）として、その地域の保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、家庭、地域の連携を図りながら子どもの連続した発達を支援する取組。
読書週間	文化の日（11月3日）を含む2週間、10月27日から11月9日まで。読書の普及・推進と出版文化の向上を目標として、全国の公共図書館などで様々なPR事業が展開されている。

トライやる・ウィーク	兵庫県が中学2年生の生徒を対象に、子どもたちが地域の公共施設や民間事業所などにおける体験活動を通じて豊かな感性を育て、また、将来の目標を見つけることを支援する事業。平成10年度から始められた。
認定こども園	小学校就学前の子どもに対する教育・保育並びに地域における子育て支援の総合的な提供を行う施設。
複本	図書館で所蔵する複数の同じ本。
ブックトーク	読書意欲の喚起を目的として、グループを対象に、特定のテーマに関連する本を数冊選び、主な登場人物や著者、あらすじなどを紹介すること。
読み聞かせ	本を見せながら読んで聞かせること。親が子に、あるいは図書館員や保育士、保育教諭、教職員などが子どもの一人ひとりまたは小グループに対して行う。
レファレンス	図書館利用者の求めに応じて図書館員が必要な情報や資料を提供し、利用者の学習や調査などを支援する業務。

加古川市子どもの読書活動推進計画 (第3次)

発行年：令和3年（2021年）

発行：加古川市

〒675-8501 加古川市加古川町北在家 2000

電話（079）421-2000(代)

<https://www.city.kakogawa.lg.jp/>

編集：加古川市教育委員会 教育指導部 中央図書館